

令和4年度 茨木市生涯学習推進計画 事業進捗報告書



次なる
茨木へ。

茨木には、次がある。

目 次

第1	生涯学習推進計画のめざす姿	
1	生涯学習推進計画のめざす姿	1
2	生涯学習推進計画の計画の体系	2
第2	生涯学習推進計画事業進捗	
1	総括表	3
2	生涯学習推進計画事業進捗の見方	4
3	茨木市機構図	5
4	令和4年度生涯学習推進計画事業評価	
(1)	基本目標1 まなびづくり	7
(2)	基本目標2 ひとづくり	35
(3)	基本目標3 まちづくり	38

第1 生涯学習推進計画のめざす姿

1 生涯学習推進計画のめざす姿

人生100年時代の到来に向けて、より長期にわたり豊かな人生を送るために、すべての市民が、いつでも、どこでも学ぶことができ、その学びを通して自己実現や生活の質の向上を図り、学んだ成果を地域社会に還元することができる、“学んで楽しい”と思える生涯学習活動のできるまちの実現をめざします。

きらめき はばたく まなびのまち 茨木

2 生涯学習推進計画の計画の体系



第2 茨木市生涯学習推進計画事業進捗

1 総括表

令和4年度茨木市生涯学習推進計画における、各目標における事業評価は以下のとおりです。なお、評価のA～Dの意味は次のとおりです。

A	基本目標の実現に向けて、生涯学習推進の取組の進捗が順調に進行している。
B	基本目標の実現に向けて、生涯学習推進の取組の進捗がおおむね順調に進行している。
C	基本目標の実現に向けて、生涯学習推進の取組の進捗にやや遅れが生じている。
D	基本目標の実現に向けて、生涯学習推進の取組の進捗に大幅な遅れが生じている。

生涯学習推進の取組評価（再掲事業含む）

基本目標	生涯学習推進の取組	事業数	生涯学習推進の取組			
			A	B	C	D
1 まなびづくり	(1)生涯学習へのきっかけづくり	52	19	32	1	0
1 まなびづくり	(2)自己を高めるための学び直しへの支援	2	0	2	0	0
1 まなびづくり	(3)ICTを活用した学びの場の提供	3	2	1	0	0
1 まなびづくり	(4)生涯学習の情報提供と相談窓口の充実	4	4	0	0	0
1 まなびづくり	(5)各地域の生涯学習関連施設を拠点とした生涯学習の推進	9	2	7	0	0
2 ひとづくり	(1)生涯学習活動団体等への支援	2	0	2	0	0
2 ひとづくり	(2)学びの成果の活用とボランティア活動団体への支援	1	0	1	0	0
2 ひとづくり	(3)地域人材の発掘と活用	4	1	2	1	0
3 まちづくり	(1)地域社会の教育力の活用	2	0	2	0	0
3 まちづくり	(2)学校、家庭、地域組織・団体の連携促進によるコミュニティづくりの推進	7	0	7	0	0
3 まちづくり	(3)地域課題解決のための生涯学習の充実	12	4	8	0	0
3 まちづくり	(4)大学等と連携した学習機会の充実	2	0	2	0	0
3 まちづくり	(5)地域に関する学習機会の充実	20	11	9	0	0
合計		120	43	75	2	0

2 生涯学習推進計画事業評価の見方について

◇ 基本目標																																									
1	<p>1 まなびづくり</p> <p>基本目標</p> <p>茨木市生涯学習推進計画の基本目標の内容を記載しています。</p>																																								
◇ 生涯学習推進の取組内容																																									
2	<p>(1)生涯学習へのきっかけづくり</p> <p>①</p> <p>茨木市生涯学習推進計画の生涯学習推進の取組内容について記載しています。</p>																																								
3	<p>取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生涯学習者が参加 ● 産官学連携 ● 様々な 																																								
◇ 事業内容																																									
1	<p>事業名 生涯学習センターきらめき講座等実施事業</p> <p>担当課 (部名) 市民文化部 (課名) 文化振興課</p> <p>再掲</p> <p>事業内容 生涯学習を学びたい人が、様々な分野の講座を選択できるようにきらめき講座等や各種主催事業を実施します。また、大学や企業等が持つ知的財産を市民が学ぶことができるよう、連携講座を実施します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動実績</th> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>きらめき講座受講生(延人数)</td> <td>人</td> <td>13166</td> <td>20426</td> <td>25386</td> <td>-</td> <td>26000(R5)</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>きらめきホール事業数</td> <td>件</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>-</td> <td>9(R5)</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>大学連携講座受講者数(延人数)</td> <td>人</td> <td>1250</td> <td>1778</td> <td>282</td> <td>-</td> <td>1000(R5)</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>企業等連携講座受講者数(延人数)</td> <td>人</td> <td>432</td> <td>416</td> <td>548</td> <td>-</td> <td>650(R5)</td> </tr> </tbody> </table> <p>R4年度の取組内容及び成果</p> <p>評価 B</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策が緩和されたことにより、受講生の人数制限等が緩和され、きらめき講座をはじめ講座受講生が増加し、コロナ前の受講状況に近づけることができた。ただし、大学連携講座については、当初予定していた事業が連携できなかったため、受講者数は減少した。</p> <p>課題</p> <p>令和4年度時点での茨木市生涯学習推進計画における事業進捗状況について、取組内容及び成果、課題や方向性について記載し、事業の評価を実施しています。</p>	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標	①	きらめき講座受講生(延人数)	人	13166	20426	25386	-	26000(R5)	②	きらめきホール事業数	件	7	7	9	-	9(R5)	③	大学連携講座受講者数(延人数)	人	1250	1778	282	-	1000(R5)	④	企業等連携講座受講者数(延人数)	人	432	416	548	-	650(R5)
活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標																																		
①	きらめき講座受講生(延人数)	人	13166	20426	25386	-	26000(R5)																																		
②	きらめきホール事業数	件	7	7	9	-	9(R5)																																		
③	大学連携講座受講者数(延人数)	人	1250	1778	282	-	1000(R5)																																		
④	企業等連携講座受講者数(延人数)	人	432	416	548	-	650(R5)																																		
2	<p>事業名 アートを活用したまちづくり推進事業</p> <p>担当課 (部名) 市民文化部 (課名) 文化振興課</p> <p>再掲</p> <p>事業内容 住民交流やまちの課題解決に芸術を活用し、芸術文化都市として茨木市のさらなる発展を図る。また、運営については、市内の芸術団体と市の協働による実行委員会形式で実施する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動実績</th> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>選出作家</td> <td>人</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>-</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>R4年度の取組内容及び成果</p> <p>評価 A</p> <p>作家を1名選定し、市内にて作品制作・発表を行うアートプロジェクトを実施した。</p> <p>課題</p> <p>より多くの方に作品に触れてもらう機会を増加させる必要がある。事業のさらなる拡充が求められる。</p> <p>今後の方向性</p> <p>実施主体の見直しを行い、令和5年度より(公財)茨木市文化振興財団の事業への移管を決定した。</p>	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標	①	選出作家	人	0	1	1	-	-	②						-		③						-		④						-	
活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標																																		
①	選出作家	人	0	1	1	-	-																																		
②						-																																			
③						-																																			
④						-																																			

【基本目標】

1 まなびづくり

◇ 基本目標

1	基本目標	1 まなびづくり
		すべての市民が生涯学習に取り組むことができるよう、生涯学習へのきっかけづくりに取り組み、多様な学習ニーズに対応したメニューや機会を提供します。市民が社会を担う力の向上につながるキャリア向上を図るとともに、社会人が学び直しを図ることのできる環境づくりに取り組みます。また、情報通信社会の進展に伴い、ICTを活用した新たな学びと活動の場の創出に努めます。生涯学習センターを拠点に、公民館やコミュニティセンター等の各地域の生涯学習関連施設と連携を図り、役割を明確にしながら、地域社会と一体となった生涯学習に取り組めます。生涯学習センターにおいては、生涯学習拠点施設として、運営方法等も踏まえた今後の施設のあり方について検討します。

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(1)生涯学習へのきっかけづくり
		①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習へのきっかけづくりの推進
3	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯学習センター等の生涯学習関連施設において、多様な分野における市民向け講座の充実を図ります。また、興味や関心を持つことができ、様々な対象者が参加しやすい日程とテーマを設定した講座の開催を検討します。 ● 産官学民の様々な機関が実施されている機能を包括的に統合し、市民が生涯学習を実施していくためのプラットフォームづくりを進めるとともに、大学や民間事業者（企業）等と連携して、専門的な内容や特色ある講座を開催します。 ● 様々な学習機会や行政等が実施する公開講座等の情報提供に努めます。

◇ 事業内容

1	事業名	生涯学習センターきらめき講座等実施事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	生涯学習を学びたい人が、様々な分野の講座を選択できるようにきらめき講座等や各種主催事業を実施します。また、大学や企業等が持つ知的財産を市民が学ぶことができるよう、連携講座を実施します。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	きらめき講座受講生(延人数)	人	13166	20426	25386	-	26000(R5)
	②	きらめきホール事業数	件	7	7	9	-	9(R5)
	③	大学連携講座受講者数(延人数)	人	1250	1778	282	-	1000(R5)
	④	企業等連携講座受講者数(延人数)	人	432	416	548	-	650(R5)
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 新型コロナウイルス感染症対策が緩和されたことにより、受講生の人数制限等が緩和され、きらめき講座をはじめとし講座受講生が増加し、コロナ前の受講状況に近づけることができました。ただし、大学連携講座については、当初予定していた事業が連携できなかつたため、受講者数は減少した。					
	課題	引き続き、教養・実技講座ともに様々な分野の講座を実施しているが、更なる充実のため、引き続き多様なニーズを情報収集し、学習機会の提供と学習促進につなげる必要がある。						
今後の方向性	引き続き、多様なニーズの講座を展開できるよう、情報収集を行い、講座の開催を検討する。							
2	事業名	アートを活用したまちづくり推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	住民交流やまちの課題解決に芸術を活用し、芸術文化都市として茨木市のさらなる発展を図る。また、運営については、市内の芸術団体と市の協働による実行委員会形式で実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	選出作家	人	0	1	1	-	-
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A 作家を1名選定し、市内にて作品制作・発表を行うアートプロジェクトを実施した。					
	課題	より多くの方に作品に触れてもらう機会を増加させる必要がある。事業のさらなる拡充が求められる。						
今後の方向性	実施主体の見直しを行い、令和5年度より（公財）茨木市文化振興財団の事業への移管を決定した。							

3	事業名	まちなかアートツアー						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	市内に設置されている彫刻や絵画等の芸術作品を市民に知ってもらうことにより、文化芸術を身近に感じてもらう機会とするため、「まちなかアートツアー」を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	参加者数	人	-	-	10	-	12(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 身近にある文化芸術にふれ、市民同士がつながることができる場を創出するため、京都芸術大学のアート・コミュニケーション研究センターと共同で対話型鑑賞プログラムの講座を実施した。					
課題	より多くの市民に参加してもらえよう努める必要がある。							
今後の方向性	対話型鑑賞プログラムの講座を継続的に実施していく							
4	事業名	文化振興事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	文化関係団体や文化振興財団と連携して芸術文化に関する事業を実施することにより、広く市民文化の向上を図るとともに文化関係団体の活動を促進させる。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	文化振興事業参加者数	人	553	7911	12925	-	13000(R5)
	②	文化振興財団主催事業入場者数	人	2215	4202	5685	-	5700(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A 新型コロナウイルス感染の影響が落ち着き、多くの文化振興事業が再開し、事業の参加者は顕著な回復傾向を見せた。次年度のおにクル開館に向け開館記念式典や市民の期待感醸成に向けたプレ事業等について調整を進めたほか、クリエイトセンターの喫茶食堂スペースを様々な団体の交流の場とし、団体間の連携の一助としました。					
課題	・市民が文化芸術に触れる機会が増加したが、今後おにクル開館に向けた式典・イベント等の検討をさらに進める必要がある。 ・おにクル開館に向けたさらなる取り組みが必要である。							
今後の方向性	おにクル開館に向けた事業の検討を進める。							
5	事業名	少年少女合唱団育成活動事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	本市の音楽文化の振興と青少年の健全育成を図ることを目的に、吹奏楽や合唱において市民の音楽活動の充実に努めるとともに音楽文化の向上を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	少年少女合唱団定期演奏会	人	無観客	無観客	522	-	550(R5)
	②	オータムコンサート	人	無観客	779	641	-	700(R5)
	③	スプリングコンサート	人	中止	無観客	227	-	300(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 新型コロナウイルス感染の影響が落ち着き、観客ありで事業を再開した。					
課題	コロナ前の観客数が戻ってくるよう周知に努める必要がある。							
今後の方向性	継続して事業を実施する。							

6	事業名	【再掲】スポーツ団体・指導者育成事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	スポーツ推進課			
	再掲	-						
	事業内容	スポーツ推進計画に基づき、スポーツを支える指導者等の人材の育成を行うとともに、スポーツ関係団体や老人クラブ等の地域に根ざして活動する団体、大学、企業等、関係団体と連携・協働することにより生涯スポーツ環境の充実を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	生涯スポーツ指導者養成講習会参加者数	人	29	30	92	-	100(R5)
	②	少年スポーツ指導者研修会参加者数	人	51	41	19	-	30(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	多様化する市民のスポーツニーズに対応した正しいスポーツの知識や技術の習得に寄与した。また、スポーツ関係団体間の連携、協働事業により市内のスポーツ活動の活性化が図れた。					
	B							
課題	スポーツ関係団体の活動人材が不足しており、また団体の運営を担う人材も高齢化している。							
今後の方向性	さらなるスポーツ活動の充実を図るため、協働イベントの開催などによりスポーツ関係団体間の連携を強化する。また、その担い手である指導者の確保・育成に取り組む。							
7	事業名	生涯スポーツ推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	スポーツ推進課			
	再掲	-						
	事業内容	身体を動かす楽しさを体感することにより、運動やスポーツの習慣化を図るため、体育協会やスポーツ推進委員協議会、総合型地域スポーツクラブ等の関係団体と連携し、幼児から高齢者を対象としたスポーツイベントなどを開催します。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	キッズスポーツデー	人	-	-	750	-	1500(R5)
	②	ウォーキング講習会	人	42	71	68	-	70(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	幼児から青少年から働き世代、高齢者まで幅広い世代のニーズに応じて参加できるスポーツ機会が充実した。					
	B							
課題	さらなるスポーツ機会の充実が求められている。							
今後の方向性	引き続き市民一人の身体の状態に応じて多様な参加ができるようスポーツ機会の充実を図る。							
8	事業名	生涯学習スポーツ推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	スポーツ推進課			
	再掲	-						
	事業内容	幼児から高齢者まで幅広い世代の市民が、スポーツを楽しめる環境づくりを図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	市民総合スポーツ大会参加者数	人	3687	6766	10340	-	12000(R5)
	②	地区スポーツ・レクリエーション大会	人	-	51	10864	-	20000(R5)
	③	オーパスシステムの登録者数	人	12580	13306	13092	-	13500(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	幼児から青少年から働き世代、高齢者まで幅広い世代のニーズに応じて参加できるスポーツ機会が充実した。					
	B							
課題	さらなるスポーツ機会の充実が求められている。							
今後の方向性	引き続き市民一人の身体の状態に応じて多様な参加ができるようスポーツ機会の充実を図る。							

9	事業名	読書推進事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	中央図書館			
	再掲	-						
	事業内容	市域全体で乳幼児から高齢者まで、物語や読書を楽しむことができるよう、学校や関係施設、関係課と連携し、環境の整備・機会の提供を行い、読書活動を推進する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	読書推進行事参加者数（おはなし会参加者数を除く）	人	240	3778	2177	-	3500(R5)
	②	おはなし会参加者数	人	1992	2519	7046	-	8500(R5)
	③	職場体験・図書館見学受け入れ学校数	校	1	8	19	-	20(R5)
	④	特集コーナー企画数	回	304	340	442	-	400(R5)
	R4年度の取組内容及び成果	評価	おはなし会を私立幼稚園・保育園に拡大し、参加者数が増加した。また、中高生の同年代による推薦本紹介の取組を私立校に拡大し、中高生の読書推進に努めた。市内小中学校等への読書アンケートをWeb回答にし、サンプル数が増えたことで本市の子どもたちの読書に関する実態を把握することができた。特集コーナーの充実やブックトラベルの開催により、幅広い年齢層の市民に物語や本との出会いを提供することができた。おおむね順調なことから「B」評価とする。					
課題	読書は、感性や知性を育む大切なものであるが、スマホの普及や、生活環境の変化により、読書離れが進んでいる。							
今後の方向性	読書アンケートの結果等から今後の子ども読書活動推進の取組について検討する。 おにクルぶつくぱーくでは、乳幼児健診に合わせ、おはなし会の充実を図る。 特集コーナーの充実や、ブックトラベル等の本や物語に親しめる様々なしかけづくりにより、市民の読書活動を推進する。							
10	事業名	図書館利用促進事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	中央図書館			
	再掲	-						
	事業内容	より多くの市民に利用してもらい、利用者の教養、レクリエーション等に資することを目的に、市民との協働によりさまざまな行事や取り組みを行うとともに、市民の利便性の向上のため、サービス拠点の充実など、図書館サービス網の整備を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	利用推進行事参加者数（ロビー展示を除く）	人	209	796	2647	-	2800(R5)
	②	返却ポスト返却冊数	冊	131290	143478	170134	-	170000(R5)
	③	広域利用貸出冊数（茨木市民が他市で利用した冊数）	冊	17883	20015	24527	-	24000(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	ボランティアとの協働による行事の実施や、移動図書館のイベント参加の増加等により、図書館の利用促進やPRをすることができた。中央図書館開館30周年事業では、写真撮影パネルの設置、文学講演会、図書館の変遷を知ってもらうロビー展示等を開催し、図書館に愛着を持っていただける取組ができた。また、おにクルぶつくぱーくの周知に努めた。おおむね順調に進めたため「B」評価とする。					
課題	図書館を利用していない市民が多くいることから、利用していない市民に広く周知を図る必要がある。							
今後の方向性	「図書館を使いこなそう」講座や、移動図書館のイベント参加の充実を図る。 おにクルぶつくぱーくが新たに開館することから、図書館を利用していない市民への情報発信を積極的に行い、図書館の利用促進を行う。							
11	事業名	【再掲】地域における男女共同参画推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	地域における男女共同参画を促進するため、地域と協働して男女共同参画の推進に資する講座等の実施及び市民の自主的な男女共同参画活動を支援する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	市民協働企画講座開催回数	回	9	83	104	-	50(R5)
	②	市民協働企画参加人数	人	281	1559	1774	-	500(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	ローズWAM 1階の喫茶スペースを活用しての「WAMcafe」企画として男女共同参画に資する事業や公益活動事業の実施が増加し、多くの方に利用していただいた。					
課題	喫茶スペースについては、男女共同参画に関する事業や公益活動のために定期的に利用していただくとともに、新たな利用者にも企画を実施していただき、新たな視点を取り入れる必要がある。							
今後の方向性	喫茶スペースの利活用について大学に情報提供を行い、若年層の視点や専門的な視点を取り入れた事業展開を行う。							

12	事業名	環境教育・啓発事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	将来を担う子どもたちをはじめとする幅広い市民を対象に、環境に関する学習会・研修会・観察会等を開催し、環境保全意識を高め、環境行動につなげていく。実施にあたっては、市が直接実施するほか、環境教育ボランティアや市内環境保全活動市民団体と協働する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	テーマ設定型環境教育講座開講数	回	-	1	-	-	1(R5)
	②	環境教育ボランティア・サポーター登録人数	人	60	56	58	-	70(R5)
	③	小学校向け環境学習プログラム活用校	校	11	13	6	-	10(R5)
	④	こどもエコクラブ登録者数	人	57	48	35	-	50(R5)
	R4年度の取組内容及び成果	評価	令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響に配慮しながら、環境教育ボランティア及びサポーターと協働し、環境学習講座を開催した。また、新たな取り組みとして、小学校向けに環境啓発の動画を作成し、活用を促した。					
課題	新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなってきたので、対面での講座の実施を増やしていくことを検討し、環境学習の提供機会を増やしていく必要がある。							
今後の方向性	今後は対面での環境学習を提供する機会を増やしていくことを目指し、環境教育ボランティアや市内の環境保全活動市民団体と協働していく。							
13	事業名	環境フェア開催事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	本市の環境の現状などをわかりやすく情報提供し、これからの市域環境を市民とともに保全・創造する契機のため、市民団体や事業者の参画のもと、市民一人ひとりが取り組むべきことを、催し物などを通じて分かりやすく紹介し、環境への理解を深める場とする。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	来場者数	人	3400	-	4100	-	4500(R5)
	②	屋内行事参加団体数	団体	25	19	24	-	25(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	令和4年度においては、二年ぶりに対面でのイベントを開催することができ、展示物やワークショップなどを通して、市民の方に環境への理解を深める機会を提供した。					
課題	新型コロナウイルス感染症の影響が残っていることもあり、イベントの来場者数については、感染症が拡大する前のときよりは少なくなっている。							
今後の方向性	環境啓発に関するイベントの適切な開催方法を模索しながら、多様なコーナー及びワークショップを提供できるように検討していく。							
14	事業名	青少年野外活動センター運営事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	青少年の健全育成のために、自然体験や集団生活の機会を提供するとともに、青少年が自然に親しみ、仲間作りやボランティア活動等を楽しみながら体験することで、より豊かな人間性を身に付けるための学習機会を提供する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	年間利用者数	人	2615	4859	6816	-	8000(R5)
	②	主催事業数	事業	3	6	10	-	11(R5)
	③	主催事業の参加人数	人	770	523	1300	-	1500(R5)
	④	稼働率	%	42	54.5	63.3	-	60(R5)
	R4年度の取組内容及び成果	評価	「少人数・短期間」のキャンプ等の実施、森林環境の整備や施設の整備を行い様々な体験活動の機会を提供したことで増加した。					
課題	非認知能力の向上等必要な事業展開を行い、多くの青少年に、更なる体験活動の充実を図る。							
今後の方向性	青少年にかかわる社会情勢の変化に応じ、事業の企画や効果を見直しながら、青少年の体験活動の充実を図る。							

15	事業名	社会教育事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	知識の習得とともに自らの学習と実践を通じて自主的活動の充実と地域の連帯意識を高めることを目的に、各種講習会を開催する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	講座等の開設数	回	167	156	187	-	160(R5)
	②	講座等の参加者数	人	993	1152	973	-	1100(R5)
	③	成人祭参加率	%	51.9	57.8	55.3	-	60(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B					
		コロナ禍においてもオンライン活用や通信添削等を各教室の実情に応じて取り入れながら実施することができた。						
課題	事業実施に当たり、多文化共生事業との連携を進めていく必要がある。							
今後の方向性	市民の自発的・主体的な学習活動や社会参加を支援するため、社会情勢の変化に応じた実施形態や手法を検討していく。							
16	事業名	中央公民館講座実施事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	社会教育の観点から、市民の学習機会の充実を図るため、生涯学習センターを活用した少人数での学習体制による日本語読み書き学級や市民ニーズに対応する講座を開催するほか、現代的な課題、地域課題に応じた事業にも取り組む。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	日本語読み書き学級実施回数	回	20	29	35	-	30(R5)
	②	日本語読み書き学級受講者数(延べ人数)	人	259	281	319	-	300(R5)
	③	公民館長等研修会	回	0	1	1	-	1(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A					
		日本語読み書き学級については、適切な新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、コロナ過前と同じく年間35回開催し、受講者のニーズに応えることができた。 公民館長等研修会については、公民館区行事等における新型コロナウイルス感染症対策等についての情報共有を図ることができた。						
課題	日本語読み書き学級の実施回数は増加したが、1回あたりの受講者数が減少していることから、受講者の増員を図るとともに、コロナ過で中断していた「異文化交流事業」を再開することが必要である。							
今後の方向性	多文化共生事業との連携を図りながら、日本語読み書き学級を実施する。							
17	事業名	財政状況等の公表事務事業						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	財政課			
	再掲	-						
	事業内容	より多くの市民に、市の財政運営や状況等について関心を持ってもらうために、よりわかり易くタイムリーな財政情報を提供する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	ホームページの更新	回	30	27	21	-	24(R5)
	②	広報誌への掲載	回	4	5	5	-	3(R5)
	③	小・中学校の社会科授業との連携	回	2	2	2	-	2(R5)
	④	高校の社会科授業との連携	回	0	0	1	-	2(R5)
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B					
		ホームページや広報誌を活用して、予算・決算等をはじめ市の財政運営や状況等について情報をタイムリーに提供できている。小・中学校の社会科授業については、これまでどおり、資料の提供を行うほか啓発グッズを配布し連携できている。高校との連携については、出前授業を一回実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響により一部中止となった。						
課題	小・中・高等学校の社会科授業との連携については、アンケートを実施し資料等への意見をいただいております。意見を参考にしながら今後も継続して行く必要がある。							
今後の方向性	ホームページについては、よりわかりやすいページ作成に努める。社会科授業との連携については、アンケートの結果や新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら事業を継続する。							

18	事業名	家庭系ごみ減量推進事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	資源循環課			
	再掲	-						
	事業内容	循環型社会の形成に向け、市民がごみの減量化に関する理解を深めるための啓発を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	出前講座	回	3	0	7	-	14(R5)
	②	ごみ分別アプリ ダウンロード数(累計)	件	32420	42275	52239	-	63,900(R5)
	③	フードドライブ	個	1261	1407	1773	-	1,000(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 広報誌・ホームページ・ごみ分別アプリ等による積極的な発信や、コロナ禍で実施できなかった小学校を対象とした出前講座を再開することにより、周知・啓発に努めた。また、フードドライブの実施により市民の自発的なごみの減量活動を促進した。ごみ分別アプリ等によるダウンロード数は、目標達成にはいたらなかったものの確実に伸びており、フードドライブについては、職員対象に食料品のみでなく日用品も含め実施し、実績は伸びている。					
課題	一般廃棄物処理基本計画の減量目標達成に向け、重点施策である食品ロス削減やプラスチックごみ削減等について、さらなる取組が必要である。							
今後の方向性	引き続き、広報誌・ホームページ・ごみ分別アプリ等による積極的な発信や、小学生を対象とした出前講座の実施などにより、周知・啓発に努めるとともに、食品ロス削減、プラスチックごみ削減や再資源化可能物の分別の徹底等について重点的に取り組んでいく。							
19	事業名	一般介護予防事業						
	担当課	(部名)	健康医療部	(課名)	長寿介護課			
	再掲	-						
	事業内容	住民運営の通いの場を充実させ、人と人とのつながりを通じて、参加者や通いの場が継続的に拡大していくような地域づくりを推進し、要介護状態になっても生きがい・役割をもって生活できる地域の実現を目指す。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	はつらつ教室参加人数	人	4294	2562	3556	-	3698(R5)
	②	出張講座等参加延人数	人	1104	1374	3514	-	3982(R5)
	③	街かどデイハウス外介護予防事業参加延人数	人	740	587	0	-	0(R5)
	④	介護予防健康運動教室	人	4271	1686	2520	-	2772(R5)
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 依然としてコロナ禍の影響はあるが、令和3年度と比べると各事業ともに利用者数は増加している。(街かどデイハウス介護予防事業を除く)					
課題	はつらつ教室・介護予防健康運動教室については、利用者の固定化が課題となっている。							
今後の方向性	市主催の常設型の介護予防教室を見直し、住民運営の通いの場等への支援を充実させていく。							
20	事業名	生涯学習センター出前講座実施事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	1 まなびづくり、(1)生涯学習へのきっかけづくり、②多様性を尊重した生涯学習のきっかけづくり						
	事業内容	市内で活動されている団体等が、自発的に学びたいメニューを選択できるよう、市の様々な事業や施策について講座を受けられるよう出前講座を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	出前講座メニュー数	件	119	117	119	-	119(R5)
	②	出前講座実施件数	件	242	132	272	-	300(R5)
	③	出前講座受講者数(延人数)	人	12141	2953	9176	-	10,000(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 市民等が多様な分野における市の事業や施策について学ぶ機会が提供できるように、出前講座を実施した。また令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策の緩和により、受講生数が大幅に増加した。					
課題	市の多様な事業や施策について学ぶ機会が提供できるよう、講座情報の発信を行う必要がある。							
今後の方向性	引き続き、各課の講座情報を集約し、講座情報の発信を行う。							

◇ 基本目標

1	基本目標	1 まなびづくり
		すべての市民が生涯学習に取り組むことができるよう、生涯学習へのきっかけづくりに取り組み、多様な学習ニーズに対応したメニューや機会を提供します。市民が社会を担う力の向上につながるキャリア向上を図るとともに、社会人が学び直しを図ることができる環境づくりに取り組みます。また、情報通信社会の進展に伴い、ICTを活用した新たな学びと活動の場の創出に努めます。生涯学習センターを拠点に、公民館やコミュニティセンター等の各地域の生涯学習関連施設と連携を図り、役割を明確にしながら、地域社会と一体となった生涯学習に取り組めます。生涯学習センターにおいては、生涯学習拠点施設として、運営方法等も踏まえた今後の施設のあり方について検討します。

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(1)生涯学習へのきっかけづくり
		②多様性を尊重した生涯学習へのきっかけづくりの推進
3	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 人生100年時代の到来や超高齢社会が進む中で、生活課題の一つでもある健康問題に対応できるよう、健康の維持・増進を図っていくための健康づくりに関する生涯学習活動を推進します。 ● 人権、多文化共生、男女共同参画、環境、消費者問題、防災・減災等、現代的・社会的課題に対応した、多様な講座や事業を開催します。 ● 高齢者、働く世代、子育て世代、外国人等、すべての人々が自己実現をめざし、自由に学びの機会を得られるよう、学びやすい機会の提供に努めます。 ● 障害のある人が、教育やスポーツ、文化等の多様な生涯学習活動を行うことができるよう、活動内容等を含めた環境整備に努めます。 ● 子どもが夢や希望をもてる社会を実現するため、すべての子どもに対し、キャリア教育等の包括的な支援を推進します。 ● 親子のふれあい活動などの充実を図り、家庭の教育力を高める活動を推進します。

◇ 事業内容

21	事業名	生涯学習センター一時保育事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	子育て世代等の人々が生涯学習に取り組むことができるよう、センターの保育室にて一時保育を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	保育人数	人	108	266	234	-	270(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	令和3年度から引き続き、子育て世代等の方々から引き続き講座をはじめとした講座やイベントに自由に参加できるよう、一時保育の実施を行った。					
課題	-							
今後の方向性	引き続き、子育て世代等の方々から自由に学びの機会を得られるように一時保育を実施する。							
22	事業名	地域国際化推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	市内で生活する外国人が生活しやすいよう、市民ハンドブック等の刊行物の多言語化や、外国人も日本人も共に生活できる環境づくりを行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	多言語版等生活ガイドブック配布数	部	308	1078	765	-	800(R5)
	②	国際交流事業参加者数（協会事業参加者含む）	人	350	673	1445	-	1500(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	市域における国際交流については、コロナ禍で茨木市国際親善都市協会との連携により実施している交流イベントである「国際交流の集い」は中止したものの、オンラインを活用した在住外国人へのマンツーマン日本語教育を行う実用日本語学習会や対策を講じた上での対面学習会などを継続して実施しました。また、通訳依頼増加による通訳（翻訳）ボランティア派遣数も増加しました。以上のことから、施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、在住外国人に対する支援について、庁内での情報共有・連携に加えコーディネーター機能を強化する必要があることから、「B」評価とします。					
課題	在住外国人のが大きく増加する中、多言語版生活ガイドブックの経費が増大するため、WEB版での閲覧を推進し、周知する必要があります。							
今後の方向性	多様な言語に対応できるよう、通訳ボランティアを募集し拡充します。外国人施策に関わる庁内及び各種団体の情報を整理し発信します。							

23	事業名	姉妹都市等との交流事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	海外や国内の姉妹都市等との市民レベルかつ、さまざまな分野での交流を促し、他地域の文化の理解を深める。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	訪問・代表団等交流人数（協会事業参加者含む）	人	-	-	31	-	50(R5)
	②	宿泊施設利用補助制度利用者数（小豆島町）	人	38	60	183	-	150(R5)
	③	宿泊施設利用補助制度利用者数（竹田市）	人	27	44	90	-	50(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	国内外の姉妹・友好都市との交流については、コロナ禍の影響で市民訪問団は中止するなど多様な交流機会の提供が難しい中でも、茨木市国際親善都市協会と連携し、子どもの絵画・書の交換事業、オンラインを活用したミネアポリス市とのミーティング、安慶市児童と本市児童とのショートムービーの交換、ミネアポリス市・茨木市姉妹都市協会のニュースレターへの寄稿など、工夫を凝らして交流事業を行いました。また、宿泊施設利用補助制度の利用者数も増加しました。以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、多くの方の対面での直接的な交流ができなかったことから、「B」評価とします。					
課題	物価高等の世界情勢に鑑み、国内外の姉妹・友好都市との交流事業における費用負担が増大していることから、実施方法の再検討の必要です。							
今後の方向性	コロナ禍で中止していた姉妹・友好都市交流事業の再構築及び宿泊施設利用補助制度のさらなる周知を行います。							
24	事業名	子ども・若者自立サポート事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	こども政策課			
	再掲	-						
	事業内容	ひきこもり・ニート・不登校等の状況にある子ども・若者が、状態改善できるよう、子ども・若者自立支援センター「くろす」で、ひきこもり等の当事者や家族の相談支援を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	スモールステップの段階（自立度）アップ率	%	96	96.9	97.8	-	98(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	茨木市子ども・若者支援地域協議会の構成機関を対象に、発達障害等をテーマに講習会を開催した。福祉や教育等、様々な機関からの参加があり、参加者アンケートの結果は高評価であった。また、子ども・若者支援地域協議会に高齢福祉担当課や市内高等学校等が参画したことから連携強化につながった。子ども・若者自立支援センター「くろす」におけるスモールステップの段階（自立度）アップ率が昨年度と比べ上昇していることから、子ども・若者の状態改善を図ることができている。					
課題	早期に自立への見通しが想定できる10代の当事者（保護者含む）に関する相談が増加する傾向がみられることから、ユースプラザとの連携を更に強化する必要がある。							
今後の方向性	新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことも影響し、相談ケースが増加していることから、今後、相談体制の充実を検討する必要がある。							
25	事業名	声の広報、点字広報の発行						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	まち魅力発信課			
	再掲	-						
	事業内容	視覚障害者や高齢者等を対象とした広報誌の音訳版「声の広報いばらき」や点字版「広報いばらき」を発行する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	声の広報登録者数	人	26	24	24	-	24(R5)
	②	点字の広報発行部数	人	287	243	216	-	216(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	滞りなく発行し、希望者に郵送することができた。					
課題	利用者の高齢化等を背景に、声の広報・点字の広報ともに利用者数が減少傾向にある。							
今後の方向性	必要な方にご利用いただけるように、今後も周知に取り組む。							

26	事業名	火災予防推進事業						
	担当課	(部名)	消防本部・消防署	(課名)	予防課			
	再掲	-						
	事業内容	火災を未然に防止するため、火災予防広報を充実する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	火災予防運動に伴うイベント	回	0	0	2	-	2(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 秋季春季に実施される全国火災予防運動に伴い、火災予防広報の一環として10月には消防署開放デー、2月には春の消防フェアを実施しました。ターゲットを子育て世代としイベントに参加してもらうことで火災予防について興味を持ってもらうきっかけづくりとなるよう取組みました。					
課題	昨今救急件数の増加等によりイベントの実施にかかる人員確保が困難となっています。消防体制を確保しながら安全に実施するため、職員の動員及びイベント内容について、小規模でも満足度の高いものとしていく必要があります。							
今後の方向性	令和5年度は、消防体制に影響がない範囲で年2回を目標に火災予防広報イベントを実施していきます。							
27	事業名	交通安全対策事業						
	担当課	(部名)	建設部	(課名)	交通政策課			
	再掲	-						
	事業内容	交通事故の撲滅を図るため、幼稚園・小中学校等での交通安全教室を実施するとともに、交通安全推進団体に対し交付金を付与する。また、高齢者の自転車乗用中の転倒による頭部損傷の重大事故から身を守る自転車用ヘルメットの着用を、広く市民に啓発推進する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	交通安全教室の実施(回数)	回	96	111	120	-	120(R5)
	②	交通安全教室の実施(参加者)	人	28980	35269	35921	-	37000(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B ・交通安全教室の実施回数・参加者数ともに増加し、広く市民に啓発を行った。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で実地指導ができていなかった、自転車の交通安全教室についても実地指導を再開し、啓発に努めた。 ・高等学校における交通安全教室の実施件数も、昨年度より増加した。					
課題	・交通安全教室の案内をするものの、開催に至らない団体があった。							
今後の方向性	・当事業への理解と重要性について、引き続き関係団体へ周知する。 ・今後の交通安全教室の開催方法・内容について検討する。							
28	事業名	女性の活躍促進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	男女共同参画社会の実現を目指して、「女性活躍推進法」及び「第2次男女共同参画計画(改訂版)」に基づき、更なる女性の活躍推進を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	関連講座参加者数	人	417	54	47	-	100(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	C 女性活躍に資することを目的に時間管理術と家計管理・資産管理のセミナーを実施した。生活の見直しや計画の立て方などを学ぶことができたとの声があった。					
課題	本年度は直接的に活躍に繋がる内容ではなく、基礎的な家庭生活における内容とした。実際に活躍に繋がる内容についても検討していく必要がある。							
今後の方向性	就労やキャリアアップについては、商工労政課とも連携して内容を検討していく。							

29	事業名	茨木市人権センター補助事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	1 まなびづくり、(5)各地域の生涯学習関連施設を拠点とした生涯学習の推進						
	事業内容	人権が守られた豊かで住みよいまちをめざし、憲法で保障された基本的人権尊重の精神に基づき、あらゆる差別をなくすよう市民の人権意識の普及・高揚を促進するため、各種事業を実施する茨木市人権センターに対し、市が補助金を交付することにより、人権尊重の社会づくりに寄与						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	人権に関する講演会・バスツアー実施回数	回	2	3	6	-	6(R5)
	②	人権相談	人	54	62	30	-	80(R5)
	③	人材の養成講座の実施回数	回	3	3	3	-	8(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながら、講演会、バスツアー等の実施に取り組み、参加者の確保に努めるとともに、対象者に寄り添った相談となるよう取り組んだ。					
課題	啓発の推進のためさらに参加者等を増やす必要がある。							
今後の方向性	社会情勢や時代のニーズに合った内容・手法の検討等、効果的な事業を継続して実施する。							
30	事業名	ローズWAM相談事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	3 まちづくりへの取組、(3)地域課題解決のための生涯学習の充実						
	事業内容	市民の、とりわけ女性の相談を様々な切り口で実施することを通して、市民生活をサポートする。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	女性相談件数	件	2084	2113	2038	-	-
	②	特別相談件数	件	155	110	105	-	-
	③	相談関係研修等参加者数	人	25	20	35	-	30(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A 複雑化する相談内容に対応するため、関係部署や関係機関と連携したケース対応を行った。					
課題	複雑化する相談に対応して市民生活をサポートするため、相談員の知識・技術の向上が必要である。							
今後の方向性	困難な問題を抱える女性への支援に関する法律の施行に伴い、さらに相談件数の増加、相談内容の複雑化が予想される。人員増強を含め体制整備を行う必要がある。							
31	事業名	人権啓発推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	市民一人ひとりが人権尊重の精神を当然のこととして身につけ、日常生活において実践することにより、豊かな人権文化の創造をめざすため、相談への対応や冊子の発行、講演会や展示の実施等により、市民の人権意識の高揚に向けた啓発を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	啓発カレンダー・冊子	部	3600	7400	7400	-	7400(R5)
	②	講演会来場者数	人	488	3051	699	-	1000(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 啓発カレンダー等については、児童・生徒に配布するとともに、小中学校の各教室に掲示してもらい、1年を通して、さまざまな人権課題に気づききっかけとなる情報を提供することができた。 講演会では、感染症拡大防止のため、会場入場とオンライン配信とを併用する手法により、参加者の確保に努めた。					
課題	カレンダーについては、引き続き、用語や掲載情報について見直していく必要がある。 講演会については、参加者の増のために、啓発手法、テーマ設定、講師の選定等、総合的に検討することが必要となっている。							
今後の方向性	カレンダー等については、わかりやすい表現を意識するとともに、必要に応じて新しいテーマを取り入れた情報内容とする。 講演会については、引き続き、啓発効果の高い手法及び内容等の検討が必要である。							

32	事業名	非核平和推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	「非核平和都市宣言」の趣旨の普及高揚を図り、核兵器廃絶と平和に関する市民の関心と理解を深めるため、非核平和展及びパネル展を開催するとともに、街頭啓発を行う。また、民間団体が実施する平和行動を支援する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	非核平和展来場者数	人	703	945	1011	-	2000(R5)
	②	非核平和展入場者アンケートによる満足度(大変満足+概	%	87	96	89	-	90(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	子どもや若い世代に戦争の悲惨さや命の尊さを感じてもらえるよう、夏休み期間中に非核平和展を開催した。コロナ禍の影響で規模は縮小したものの、本市の戦争被害や、被爆者から聞き取り高校生が描いた絵画等のパネル展示、子ども向けの映画上映等のほか、ウクライナ避難民の写真展と講演会を実施した結果、入場者数が増加し、アンケートでも一定の評価を得ることができた。					
課題	J R 茨木・阪急茨木市両駅前での街頭キャンペーンについてはコロナ禍の影響で中止とした。							
今後の方向性	戦争の記憶を風化させず、非核平和の尊さを若い世代に引き継いでいくため、より効果的な内容や方法を検討し実施する必要がある。また現在起こっている世界の紛争等への関心を高めることも必要である。							
33	事業名	茨木地区人権推進企業連絡会事務						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	商工労政課			
	再掲	-						
	事業内容	大阪府公正採用選考人権啓発推進員制度の円滑な推進を図り、企業従業員の啓発の充実と就職の機会均等に資することを目的とする茨木地区人権推進企業連絡会の事務局として、従業員研修や推進員研修などを実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	従業員研修・推進員研修開催回数	回	4	5	7	-	7(R5)
	②	研修会受講人数	人	118	55	97	-	110(R5)
	③	事業所内研修用DVDの貸出本数	人	26	33	27	-	25(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	大阪府公正採用選考人権啓発推進員関連の研修会については、コロナ禍であったが、感染防止対策を講じて、少しずつ実地による研修を再開することで、多くの企業の従業員に参加いただけた。また、DVDによる事業所内研修は微減したが、一定、職場内での公正採用選考人権啓発推進することができた。					
課題	企業の公正採用選考人権啓発推進員が交代する場合も多いことから、研修を充実させることにより、就職の機会の均等を推進する必要がある。							
今後の方向性	実地研修以外にも、時、場所を選ばないDVDによる社内研修やオンライン研修を導入し、研修を機会を充実させる。							
34	事業名	雇用・労働関係セミナー及び労働に関する啓発事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	商工労政課			
	再掲	1 学びづくりへの取組、(2)自己を高めるための学び直しへの支援						
	事業内容	健全な雇用関係の確立及び働きやすい職場環境の実現を図るため、セミナーを開催するとともに、公正な採用選考、障害者・高齢者雇用促進などの啓発活動を実施している。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	就職支援セミナー受講者数	人	35	41	35	-	50(R5)
	②	技能講習受講者数	人	2	1	0	-	3(R5)
	③	障害者向けパソコン講座	人	5	5	3	-	8(R5)
	④	在宅ワークセミナー受講者数	人	-	18	23	-	30(R5)
	R4年度の取組内容及び成果	評価	技能講習や障害者向けパソコン講座については受講申込者が少なかったが、令和3年度から実施している自営型在宅ワークの実践編については、入門編の受講者がレベルアップできるようにセミナー内容の見直しを図ったことにより、受講者に概ね満足いただけた。					
課題	技能講習や障害者向けパソコン講座については、ニーズや費用対効果の観点から、実施について検討する必要がある。							
今後の方向性	技能講習については、就職につなげるための技能として必要な場合もあることから、仕事なんでも相談等の中でニーズがあれば、受講へつなげていきたい。 障害者向けパソコン講座については、大阪府等でも同様のセミナーを実施されていることから、セミナーの費用対効果の観点から実施について決							

35	事業名	高齢者いきがい推進事業						
	担当課	(部名)	福祉部	(課名)	地域福祉課			
	再掲	-						
	事業内容	高齢者の居場所と出番を提供できる事業の実施により、いきがいを有する生活を実現する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	高齢者活動支援センター延利用者数	人	18525	11707	20967	-	25000(R5)
	②	多世代交流センター延利用者数	人	38841	46697	72199	-	77000(R5)
	③	いきいき交流広場参加者数	人	20787	23193	34737	-	35000(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 高齢者活動支援センター及び多世代交流センターにおいて、各種講座を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部行事の実施が中止とはなったが、感染防止対策を実施し、前年度よりも利用者数が大幅に増加している。					
課題	高齢者活動支援センター及び多世代交流センターにおいて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により事業縮小等があったものの、利用者数は大幅に増加し、新型コロナウイルス感染症拡大前までの利用者数に戻りつつある。ただし、施設利用者が高齢者という特性もあることから、感染症対策については引き続きに対応が求められる。							
今後の方向性	感染症対策や新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ変更位置づけになったことにより、コロナ禍前の利用状況に戻りつつある。引き続き感染症対策を実施しながら、コロナ禍以前以上の利用状況を目指して、講座内容の充実と高齢者も安心して利用できる施設運営を継続する。							
36	事業名	ふれあいまなび事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	中学及び高校の授業で生徒が子育て中の親子とふれあうことで、様々な子どもがいることを理解し、保護者の子育てへの思いや、子育てに関心を持ち、命の尊さを学ぶ機会を提供する。また、子育て中の親が次世代への子育て支援に貢献できる場を提供し、社会参加を促進させる。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	実施学校数	校	1	2	2	-	5(R5)
	②	参加組数	組	4	5	138	-	453(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 昨年度はLINE電話を用いたりリモート実施だったが、対面での開催を再開し、高校生と親子が直接ふれあう機会を提供できた。					
課題	対面での開催を再開したが、派遣学校数はコロナリモート開催時と同件数にとどまった。							
今後の方向性	実施を検討している学校のニーズを把握し、必要に応じて実施校の増加を検討する。							
37	事業名	お出かけ版お楽しみ広場事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	誰もが気軽に立ち寄れる商業施設の開放スペースに出向き、子育て親子が楽しめるイベントを行うことで、子育て情報を提供したり、相談できる場所の周知を図り、子育て不安や負担感の軽減を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	イベント開催回数	回	30	11	48	-	48(R5)
	②	参加者数	人	771	369	1668	-	1700(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 新型コロナウイルス等の影響もあったが、予定していたイベントを感染状況を鑑みて、製作キットなど、家に持ち帰って楽しめる工夫などをしながら予定通り開催することができた。					
課題	つながることを目的として活動しているが、昨年度に続きコロナ禍のため、子育て支援機関や地域の支援機関等とつながることができなかった。コロナ禍で孤立する親子に、少しでも孤立感を解消する手伝いの難しさがあった。							
今後の方向性	引き続き子育て親子が楽しめるイベントを行い、子育て情報を提供したり、相談できる場所の周知を図り、子育てにかかる不安や負担感の軽減を図る。							

38	事業名	一時保育事業・出前型一時保育事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	(スマイル) 一時的に保育が困難な乳幼児を預かることで、保護者の育児負担の軽減及び社会参加を促進させる。保護者の用事やリフレッシュ等の理由により、一時的に保育を行う。子育て支援総合センターの一時保育室「スマイル」にて月～土曜日午前9時から午後5時(祝日・						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	一時保育事業(スマイル)登録者数	人	646	421	623	-	750(R5)
	②	一時保育事業(スマイル)延べ利用数	人	1253	1175	8554	-	13197(R5)
	③	出前型一時保育事業	件	375	443	580	-	質的充実
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A					新型コロナウイルスの影響も減少し、派遣予定キャンセル件数も減少した。派遣の依頼を受けたものについては、すべて対応することができ、子を持つ親への生涯学習等への参加・出席機会を保證することができた。
課題	令和5年11月より、民間事業者に事業委託。事業内容の確実な引継ぎやスムーズな事業移行ができるよう、委託時期までに十分な調整が必要。							
今後の方向性	事業委託後も民間事業者と情報の交換を行い、必要に応じて適正な事業遂行に向け助言を行うなど、保護者が希望する生涯学習を受けることができるよう保育環境を整えることに努める。							
39	事業名	ファミリー・サポート・センター事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	地域において育児の援助を行いたい者と育児の援助を受けたい者が会員として登録し、相互扶助の精神に基づき行う援助活動を支援することで、仕事と育児の両立を図るとともに、地域で安心して子育てができる環境を整備する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	依頼会員	人	1192	1129	1132	-	1200(R5)
	②	援助会員	人	278	248	237	-	250(R5)
	③	両方会員	人	222	196	176	-	200(R5)
	④	活動件数	件	2516	3096	3058	-	3998(R5)
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A					コロナ禍であっても支援を必要とする会員に対し、相互援助活動を行うことができた。
課題	依頼会員数は毎年同程度であるが、援助会員数が減少傾向にある。							
今後の方向性	相互援助活動を円滑に行うため、援助会員の増加を図る必要がある。							
40	事業名	既存民間建築物耐震化啓発事業						
	担当課	(部名)	都市整備部	(課名)	居住政策課			
	再掲	-						
	事業内容	地震災害から市民の生命及び財産を守るため、民間の住宅や特定建築物の耐震化に対する市民意識の向上を図るため、情報提供や知識の普及を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	木造住宅耐震フォーラム	回	2	2	1	-	1(R5)
	②	出前講座	回	1	1	1	-	1(R5)
	③	建築相談会	回	5	5	5	-	5(R5)
	④	分譲共同住宅耐震化フォーラム	回	0	1	1	-	1(R5)
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A					情報提供、知識の普及を行うことで、耐震化に対する市民意識が向上した。
課題	-							
今後の方向性	引き続き、情報提供や知識の普及に努める。							

41	事業名	消費者教育推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	市民生活相談課			
	再掲	-						
	事業内容	学校教育関係者、消費者団体、市民団体、事業者など多様な消費者教育の推進主体者とともに、イベント、出前授業などのあらゆる機会を通じ、消費者の基本的な権利と責任、契約の重要性などを理解し、消費者被害の未然防止、社会や環境への影響にも配慮した物の選択、						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	広報誌・消費生活センターニュース等発行回数	回	25	22	22	-	26(R5)
	②	出前講座・くらしのセミナー等受講者数	人	315	1052	2594	-	2000(R5)
	③	消費生活展等のイベント参加者数	人	117	2135	1821	-	2200(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A コロナ禍において、従来型の対面による出前講座やイベント開催には一定の制限があり、オンライン講演会など、デジタルを活用した取組を実施した。加えて、若者へは、成年年齢引下げを踏まえ、庁内連携による成人祭での啓発、市内大学・高校へのリーフレット配布などを継続実施したほか、高齢者へは、消費生活関係団体等と連携した特殊詐欺防止イベントの開催など、ターゲットや状況に応じた手法で市民の学習機会の確保に努めることができた。					
課題	成年年齢の引き下げ等により、若者の消費者トラブルが多様化・複雑化しており、若者の学習機会の充実が急務となっています。消費者教育・学習機会の確保には大学や高校をはじめ、関係機関との連携や協力の更なる推進やデジタルの活用など、実施手法を柔軟に検討し、各世代への継続的な取組に努める必要がある。							
今後の方向性	消費者問題は生活全般に関わることから、各世代への継続的な取組が必要となる。このため、関係機関等との連携によりターゲットや状況に応じて最も適切な手法を選択して市民の学習機会の確保に努める。							
42	事業名	教育課題調査研究事業						
	担当課	(部名)	学校教育部	(課名)	教育センター			
	再掲	-						
	事業内容	学校が直面する今日的教育課題(情報、理科、言語、特別支援等)について実践例の収集や教材開発などの調査研究を行い、研究成果をフォーラムや研究紀要で発信し、学校教育の充実及び、本市の教育の質の向上を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	教育センターフォーラム	人	173	154	60	-	-
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 集合開催を行い、研究成果を幅広く発信することができた。					
課題	引き続き、参加者を増やす工夫を行っていく。							
今後の方向性	学校現場のニーズに沿った最新の教育課題について研究発信や情報提供を行うとともに、参加者数を増やすための工夫を行う。							
43	事業名	教育相談指導事業						
	担当課	(部名)	学校教育部	(課名)	教育センター			
	再掲	-						
	事業内容	教育に関する不安や悩みを抱えた幼児・児童・生徒、保護者や教員に対して、医師等の専門家や相談員による適切な指導・助言などの支援を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	幼児、児童生徒、保護者に対する相談	回	1391	1353	1453	-	-
	②	専門医等による特別教育相談	件	37	37	37	-	-
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A 教育相談では、相談員による直接受付、申込方法の電子化、相談時間枠の拡充等相談しやすい環境を整備し、相談者の不安や悩みに寄り添い、精神的な安定を図ることができた。 特別教育相談では、専門医等による助言により相談者に対して適切な支援ができた。					
課題	相談業務の質の維持・向上に取組んでいく必要がある。							
今後の方向性	今後も相談業務の質の維持・向上に取組んでいく必要がある。							

44	事業名	相馬芳枝科学賞実施事業						
	担当課	(部名)	学校教育部	(課名)	教育センター			
	再掲	-						
	事業内容	本市の科学教育振興のため、市内小中学生の自然科学・情報技術に関する自由研究を募集し、優れた作品の展示・表彰を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	展示作品数	点	13	136	139	-	-
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	R3年度に引き続き、感染対策を講じながら、受賞者とその保護者、学校関係者の参加による表彰式と応募作品すべての展示会を行った。					
	A							
課題	市立、私立ともに中学生の参加数が少ないため、広く情報提供・周知していく必要がある。							
今後の方向性	科学賞の意義などを発信し、児童生徒が意欲的に学習に取り組み、探求心を育むことができるような情報提供・周知を行う。また、児童生徒の学びや励み、市民の科学に親しむ機会につながるような表彰式及び展示会を企画する。							
45	事業名	エコポイント制度実施事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	環境基本計画の環境像である「心がけから行動へ みんなで創る環境にやさしいまち」に向け一歩踏み出すよう促すため、環境教育への参加、省エネ行動などの環境配慮行動を行った市民に対し、エコポイントを発行し、景品との交換等ができる制度を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	エコポイント付与回数	回	18778	35654	42717	-	45000(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	省エネルギーの実践及び普及に向けて、年間を通じて市総合アプリで電子化したポイントの付与や景品申込を行うなど利便性を向上を図った。					
	B							
課題	既存の抽選への応募者は引き続き制度を活用しているが、新規の抽選への応募者が少ない。							
今後の方向性	新規の抽選への応募者増加のための周知方法、制度のさらなる利便性向上などを検討していく。							
46	事業名	児童発達支援センター事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	発達支援課			
	再掲	-						
	事業内容	児童発達支援センターとして、日常生活に必要な療育支援サービスや地域相談支援サービス等を提供し、こどもの健全な発達を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	通所支援利用時数	人	12414	11344	12010	-	12000(R5)
	②	地域支援相談件数	件	2770	2519	2402	-	2500(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、事業活動の自粛を余儀なくされるなか職員同士試行錯誤しながら感染予防対策を行い園の運営に支障が出ないよう工夫した。					
	B							
課題	児童発達支援センターの新たな取り組みが示されたことに伴い、人員の増強や市内連携、市内事業所との連携を密に行う必要がある。							
今後の方向性	新型コロナウイルス感染症が5類に移行することに伴い、自粛していた活動等を再開する。							

47	事業名	再生資源集団回収報奨金事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	資源循環課			
	再掲	-						
	事業内容	ごみの減量及び資源の有効利用並びにごみ減量に対する市民の意識向上を図るため、自主的に再生資源集団回収を行う地域住民団体等に対し、回収量の実績に応じて報奨金を支給する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	支給団体数	団体	423	427	431	-	435(R5)
	②	総回収量	t	6707	6624	6338	-	6,300(R5)
	③	報奨金額	千円	17548	17519	17229	-	17,500(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	市内のこども会、自治会、管理組合等に対して、集団回収の実施と報奨金支給団体登録を呼びかけ、地域における自主的な活動により、ごみの減量及び資源の有効利用並びにごみ問題に対する市民の意識向上につなげることができ、市民一人当たりの回収率は全国平均を大きく上回っている。					
	B							
課題	特に古紙について新聞・雑誌の購読量の減少もあり、回収量は減少している。報奨金支給団体は増加傾向にあるが、未実施の団体に取り組んでもらうよう、継続した働きかけが必要である。							
今後の方向性	引き続き、雑がみの分別について周知するなど、資源物の分別の徹底について啓発するとともに、報奨金制度について広く周知し、より多くの団体に集団回収に取り組んでもらうよう呼び掛けていく。							
48	事業名	生ごみ処理容器等支援事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	資源循環課			
	再掲	-						
	事業内容	市内居住者で、容器等を市内に設置し維持管理することなどを要件に、生ごみを減量化・堆肥化する生ごみ処理容器等の購入に対する補助金を支給し、家庭から排出される生ごみ減量化の促進を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	生ごみ処理容器等補助金交付数 電気式以外	基	16	30	54	-	60(R5)
	②	生ごみ処理容器等補助金交付数 電気式	基	81	90	61	-	70(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	市民向けにダンボールコンポスト講習会を実施するなど周知啓発に努め、電源を必要としない容器（コンポスト容器等）への補助金申請数が増加した。家庭から排出される生ごみを推計11.4t減量するとともに、ごみ減量化に対する市民の意識向上につなげることができた。					
	B							
課題	より多くの市民に利用してもらえるよう当制度を広く周知するとともに、生ごみの減量化・堆肥化による家庭から出るごみの減量について意識啓発に努める必要がある。							
今後の方向性	引き続き、広報誌への定期的な掲載や、市民向けダンボールコンポスト講習会の実施などにより、周知・啓発に努める。							
49	事業名	高齢者いきがい推進事業						
	担当課	(部名)	健康医療部	(課名)	長寿介護課			
	再掲	0						
	事業内容	高齢者の居場所と出番を提供できる事業の実施により、いきがいを有する生活を実現する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	街かどデイハウス利用者数	人	5897	4520	1924	-	1,800(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	コロナ禍でも安全に実施できるイベントを事業所が計画・実施した結果、参加者が大きく増加した。利用者数が年々減少するのは、コミュニティデイハウス（介護予防・日常生活支援総合事業）へ移行するため。					
	A							
課題	事業所スタッフの高齢化により、人材の確保が難しくなっている。							
今後の方向性	街かどデイハウスは、令和6年度以降に、すべてコミュニティデイハウスへ移行する予定。コミュニティデイハウスへの移行後も各種趣味活動や講座を開催していく。							

50	事業名	意思疎通支援事業						
	担当課	(部名)	福祉部	(課名)	障害福祉課			
	再掲	-						
	事業内容	聴覚障害のある人となない人の意思疎通を図り、聴覚障害者の自立した生活や社会参加を支援する人材を育成することにより福祉の増進を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	手話奉仕員養成講座	人	5	46	45	-	60(R5)
	②	手話奉仕員養成講座(ステップアップ講座)	人	0	11	24	-	60(R5)
	③	夏休みこども手話教室	人	0	10	30	-	30(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A 全体としてコロナ後初の対面での講座を開催。まだ不安を感じる方も多く申し込みは、例年と比べて少ななかった。夏休みこども手話教室は、定員を大きく上回る申し込みがあり、令和5年度は、回数を増やして開催予定。					
課題	対面で開催できたことで、手話の見やすさ、教えやすさは向上したが、マスクは着けたままの方が多く、講師とのコミュニケーションがとりにくい状態は続いている。							
今後の方向性	手話講習会の開催を継続し、聴覚障害への理解や手話の普及の促進に努める。							
51	事業名	障害福祉センターハートフル施設運営事業						
	担当課	(部名)	福祉部	(課名)	障害福祉課			
	再掲	-						
	事業内容	障害者の地域での自立した生活や社会参加の促進を図ることを目的に、指定管理者制度導入施設において、地域活動支援センターⅡ型、生活介護等を実施することにより、障害者福祉の増進に寄与する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	ハートフル講座	回	40	56	119	-	128(R5)
	②	市民交流講座	回	30	30	68	-	56(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A ○ハートフル講座/市内在住18歳以上障害者手帳保持者/延べ参加人数 卓球/122人、エアロビクス/129人、陶芸/63人、和太鼓/84人、絵画/65人、健康体操/172人、音を楽しもう74人 ○市民交流講座/18歳以上の市民/延べ参加人数 アフリカライブ/183人、ダンス講座/330人、音訳講習会/41人、手作り講座/16人、笑いヨガ講座/147人、煎茶道講座/74人、タブレット講座/14人、手話とふれあおう/14人					
課題	日程、回数ともに現状維持である。定員も抽選に外れることがほぼ無い状況である。今後人気講座は抽選しなくてはならない状況になるかもしれない。							
今後の方向性	引続き、ハートフル講座、市民交流講座を実施していく。							
52	事業名	地域生活支援事業						
	担当課	(部名)	福祉部	(課名)	障害福祉課			
	再掲	-						
	事業内容	障害者が地域で自立した生活ができるよう、必要な情報の提供や生活用具等の援助、移動支援等の日常生活、社会生活を営むために必要な事業を行うことにより、その生活の安定と向上を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	移動支援従業者養成研修	人	-	-	23	-	45(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A 令和2年度、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっていたため、2年ぶりの開催となった。全身性障害者コース11名、知的障害者コース7名、精神障害者コース5名が研修を修了した。					
課題	各コース定員が15名であるが人数が集まっていないため、研修を開催していることを広く市民に知っていただく必要がある。							
今後の方向性	毎年開催することを目標とし、広報に加え、障害福祉サービス事業所への周知を行い、広く受講生を募ってきたい。							

◇ 基本目標

1	基本目標	1 まなびづくり
		すべての市民が生涯学習に取り組むことができるよう、生涯学習へのきっかけづくりに取り組み、多様な学習ニーズに対応したメニューや機会を提供します。市民が社会を担う力の向上につながるキャリア向上を図るとともに、社会人が学び直しを図ることができる環境づくりに取り組みます。また、情報通信社会の進展に伴い、ICTを活用した新たな学びと活動の場の創出に努めます。生涯学習センターを拠点に、公民館やコミュニティセンター等の各地域の生涯学習関連施設と連携を図り、役割を明確にしながら、地域社会と一体となった生涯学習に取り組めます。生涯学習センターにおいては、生涯学習拠点施設として、運営方法等も踏まえた今後の施設のあり方について検討します。

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(2)自己を高めるための学び直しへの支援
3	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会人が学び直しのできる機会を充実させるため、大学や民間事業者（企業）との連携を強化し、学習ニーズを踏まえた生涯学習の機会を提供します。 ● すべての市民のキャリア向上を図り、今後の職業に活かすことができる多様な学習機会の提供や支援方法を検討します。 ● めまぐるしく変化する社会情勢に対応できるよう、市民が社会を担う力を高め、自己を高めることのできる生涯学習の機会を提供します。

◇ 事業内容

1	事業名	【再掲】雇用・労働関係セミナー及び労働に関する啓発事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	商工労政課			
	再掲	-						
	事業内容	健全な雇用関係の確立及び働きやすい職場環境の実現を図るため、セミナーを開催するとともに、公正な採用選考、障害者・高齢者雇用促進などの啓発活動を実施している。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	就職支援セミナー受講者数	人	35	41	35	-	50(R5)
	②	技能講習受講者数	人	2	1	0	-	3(R5)
	③	障害者向けパソコン講座	人	5	5	3	-	8(R5)
	④	在宅ワークセミナー受講者数	人	-	18	23	-	30(R5)
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 技能講習や障害者向けパソコン講座については受講申込者が少なかったが、令和3年度から実施している自営型在宅ワークの実践編については、入門編の受講者がレベルアップできるようにセミナー内容の見直しを図ったことにより、受講者に概ね満足いただけた。					
課題	技能講習や障害者向けパソコン講座については、ニーズや費用対効果の観点から、実施について検討する必要がある。							
今後の方向性	技能講習については、就職につなげるための技能として必要な場合もあることから、仕事なんでも相談等の中でニーズがあれば、受講へつなげていきたい。 障害者向けパソコン講座については、大阪府等でも同様のセミナーを実施されていることから、セミナーの費用対効果の観点から実施について決定する。							
2	事業名	雇用・労働関係セミナー及び労働に関する啓発事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	商工労政課			
	再掲	-						
	事業内容	健全な雇用関係の確立及び働きやすい職場環境の実現を図るため、セミナーを開催するとともに、公正な採用選考、障害者・高齢者雇用促進などの啓発活動を実施している。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	セミナー3回参加者数(延人数)	人	50	61	37	-	40(R5)
	②	人権問題企業研修会参加者数(延人数)	人	0	14	28	-	30(R5)
	③	啓発リーフレット(4回発行)の送付数(延数)	社	3300	3300	3300	-	3300(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B コロナ禍でも感染防止対策を講じてセミナーを実施できたが、ワークルールセミナーの参加者は、令和3年度と同様のスキームで実施したものの、参加者が少なかった。 また、障害者雇用促進啓発リーフレットについては、障害者のテレワークを紹介するなど、事業主に対し、障害者の雇用への理解促進を図ることができた。					
課題	ワークルールセミナーは、四市一町が共同で講座を連続して実施することにより、労働問題や労働法制等の施策を広域的・効果的に展開を図ることを目的としているが、今回参加人数が激減したため、ニーズを把握していく必要がある。							
今後の方向性	ワークルールセミナーについては、今後の参加者の動向を見ながら、共同事業の実施内容等を検討していく必要がある。							

◇ 基本目標

1	基本目標	1 まなびづくり
		すべての市民が生涯学習に取り組むことができるよう、生涯学習へのきっかけづくりに取り組み、多様な学習ニーズに対応したメニューや機会を提供します。市民が社会を担う力の向上につながるキャリア向上を図るとともに、社会人が学び直しを図ることのできる環境づくりに取り組みます。また、情報通信社会の進展に伴い、ICTを活用した新たな学びと活動の場の創出に努めます。生涯学習センターを拠点に、公民館やコミュニティセンター等の各地域の生涯学習関連施設と連携を図り、役割を明確にしながら、地域社会と一体となった生涯学習に取り組めます。生涯学習センターにおいては、生涯学習拠点施設として、運営方法等も踏まえた今後の施設のあり方について検討します。

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(3) ICTを活用した学びの場の提供
3	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> インターネットを利用した学習が増えていることに伴い、いつでも、どこでも学習できるよう、スマートフォンやパソコン等を活用した学習機会の提供に努めるとともに、公共施設でのインターネットの環境整備を進めていきます。また、電子通信機器に不慣れな方を対象にした講習会などの実施に取り組むとともに、インターネットを利用しない市民に対しても配慮に努めます。 超高齢社会を見据え、大学や民間事業者（企業や病院など）で実施している講座等を、インターネットを活用し、市民に公開することのできる環境づくりを検討します。

◇ 事業内容

3	事業名	生涯学習センターインターネット環境整備事業						
	担当課	(部名)	市民文化部			(課名)	文化振興課	
	再掲	-						
	事業内容	インターネット環境が完備できていない方が、センターに設置しているパソコンを利用して資料検索や生涯学習に関する情報を収集することができるよう、ネットワーク環境を管理する。また、利用者が持つICT端末からインターネット上の学習コンテンツ等が利用できるようにするため、センターの全フロアにて利用できる公衆Wi-Fiを管理する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	情報コーナー利用件数	件	3790	2080	3545	-	3,700(R5)
	②	館内フリーWi-Fi接続数	件	-	8297	22531	-	23,000(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	<p>A</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策の緩和により、インターネットを利用できない方が学習情報等を収集する情報コーナーの利用者件数は、コロナ禍以前の利用者数に近い数値となった。また、貸室等に設置した公衆Wi-Fiの利用者数が、令和3年度の利用者数よりも2倍以上の利用者数となり、いつでも、どこでも学習できる環境を提供することができた。</p>					
課題	Wi-Fiの接続方法が分からず、利用できない市民の方がいるため支援する取組が必要である。							
今後の方向性	ICT関連講座において、Wi-Fi接続方法について支援を行う。							
4	事業名	生涯学習センターICT講座事業						
	担当課	(部名)	市民文化部			(課名)	文化振興課	
	再掲	-						
	事業内容	ICT機器を利用した学習方法の増加により、ICT端末を活用した講座を実施する。また場所や時間に捉われない学習ができるよう、オンデマンド配信等を活用した講座を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	ICT関連講座開催数	件	119	154	177	-	170(R5)
	②	ICT関連講座延人数	人	1476	1589	2001	-	2000(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	<p>B</p> <p>ICTに関心をもっていただくため、ICTに馴染みのない方、障害のある方、アプリの内容別の講座を開催することで、学習したい人のニーズにあった講座を開催した。</p>					
課題	ICTに馴染みのない方が一定数いるため、ICTについての理解を深めていただく学習の場の提供が必要である。							
今後の方向性	引き続き、ICTに関心をもっていただくため、ICTに馴染みのない方を対象にした講座を実施する。							

5	事業名	広報誌等発行业						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	まち魅力発信課			
	再掲	-						
	事業内容	市民に市政やまちの情報等を提供するため、「広報いばらき」を発行する。 また、転入者等に市政の概要や市の魅力をわかりやすく紹介するため、市民ハンドブック等の広報刊行物を発行する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	広報誌発行部数	冊	1615500	1632200	1648400	-	1,650,000(R5)
	②	市民ハンドブック	冊	8000	8000	8000	-	8,000(R5)
	③	市勢要覧	冊	0	3000	0	-	-
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A 広報誌に毎月多くの講座講習の記事を掲載したほか、市民ハンドブックに生涯学習に関連する施設情報等を掲載し、市民に生涯学習に係る情報提供を行った。					
課題	スマートフォンの普及等を踏まえ、今求められる広報誌等のあり方の検討が求められる。							
今後の方向性	広報誌のリニューアルに向けた検討を行う。							

◇ 基本目標

1	基本目標	1 まなびづくり
		すべての市民が生涯学習に取り組むことができるよう、生涯学習へのきっかけづくりに取り組み、多様な学習ニーズに対応したメニューや機会を提供します。市民が社会を担う力の向上につながるキャリア向上を図るとともに、社会人が学び直しを図ることができる環境づくりに取り組みます。また、情報通信社会の進展に伴い、ICTを活用した新たな学びと活動の場の創出に努めます。生涯学習センターを拠点に、公民館やコミュニティセンター等の各地域の生涯学習関連施設と連携を図り、役割を明確にしながら、地域社会と一体となった生涯学習に取り組めます。生涯学習センターにおいては、生涯学習拠点施設として、運営方法等も踏まえた今後の施設のあり方について検討します。

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(4)生涯学習の情報提供と相談窓口の充実
		①生涯学習センター等による情報提供及び相談窓口の充実
3	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯学習センター等の生涯学習関連施設において、様々な学習情報を提供することにより、市民の学習活動を支援します。 ● 生涯学習に関する相談や問い合わせに対して、生涯学習事業やグループ・サークル、教育機関などによる学習活動の情報が提供できるよう、生涯学習センターにおける機能の充実を図ります。

◇ 事業内容

6	事業名	情報ルーム管理運営事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	市民生活相談課			
	再掲	-						
	事業内容	市政に関する情報の積極的な提供を図るため、各種行政資料や市政刊行物等を情報ルームに設置し、市民の閲覧に供する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	閲覧資料、パンフレット設置数	種類	613	578	522	-	-
	②	有償刊行物販売数	部	356	304	259	-	-
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A 各種行政資料や市政刊行物等を情報ルームに設置し、市民の閲覧に供することで市政に関する情報の積極的な提供を図った。					
	課題	公共施設の機能再配置にあたり、情報ルームに設置する資料の精査、書架及び閲覧棚等のレイアウトの見直しが必要である。						
	今後の方向性	情報ルームを市民生活相談課北側に移設し、設置する資料の精査、書架等のレイアウトの見直しを行う。また、市民等が閲覧できる市ホームページ閲覧用パソコンを設置し、情報取得に配慮するとともに、市民等の利便性の向上を図る。						
7	事業名	生涯学習センター情報提供等実施事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	広報誌・市ホームページ・生涯学習情報誌「Next Stage」等を通じて、様々な生涯学習関連情報の提供を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	生涯学習情報誌発行	冊	12900	12900	12900	-	12,900(R5)
	②	Next Stage情報掲載数	件	345	432	587	-	590(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A Next Stage情報掲載数はコロナ禍における事業実施の工夫等により前年度よりも増加し目標値を上回った。また、より多くの市民が生涯学習機会を得ることができるよう市ホームページやフェイスブック等にて情報発信に努めた。					
	課題	引き続き、生涯学習情報誌発行に係る情報収集の充実に努め、更なる生涯学習情報を発信し、市民に周知をする必要がある。また、ホームページ等のインターネットを活用し、生涯学習情報を発信する必要がある。						
	今後の方向性	引き続き、関係課及び団体等の生涯学習情報を収集及び発信するとともに、情報誌発行までに掲載できなかった講座やイベントについては、追加情報として収集し、インターネット等を活用して情報発信を行う。						

8	事業名	パブリシティ活動事業						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	まち魅力発信課			
	再掲	-						
	事業内容	市内外に向け、市政情報の周知や市の魅力をPRするため、新聞やテレビ等のマスメディアを活用し情報を発信する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	新聞社等のマスメディアへの記事提供数	件	141	139	168	-	150(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	記者等に報道提供をすることで、マスメディアを活用し情報を発信できた。					
	A							
課題	-							
今後の方向性	今後も市政情報や地域情報について、積極的な報道提供に努める。							
9	事業名	ホームページ・SNS運営事業						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	まち魅力発信課			
	再掲	-						
	事業内容	最新の市政情報を広く市民に素早く提供するため、市ホームページの適切な管理・運営を行うとともに、だれもが利用しやすいようにコンテンツの充実を図る。また、SNSの持つ双方向性を活かした積極的な情報発信を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	ホームページアクセスユーザー数	人	約3,354,000	約3,836,000	約3,288,000	-	3,200,000(R5)
	②	SNS投稿件数	件	447	498	469	-	460(R5)
	③	Facebook及びTwitterフォロワー合計数	人	16509	18077	18744	-	19,000(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	ホームページ上の音声読み上げ機能を向上させ、ページ内のPDFファイルも読み上げ可能にした。					
	A							
課題	-							
今後の方向性	誰もが必要な情報を探しやすく、わかりやすいホームページ運営を行う。							

◇ 基本目標

1	基本目標	1 まなびづくり
		すべての市民が生涯学習に取り組むことができるよう、生涯学習へのきっかけづくりに取り組み、多様な学習ニーズに対応したメニューや機会を提供します。市民が社会を担う力の向上につながるキャリア向上を図るとともに、社会人が学び直しを図ることができる環境づくりに取り組みます。また、情報通信社会の進展に伴い、ICTを活用した新たな学びと活動の場の創出に努めます。生涯学習センターを拠点に、公民館やコミュニティセンター等の各地域の生涯学習関連施設と連携を図り、役割を明確にしながら、地域社会と一体となった生涯学習に取り組めます。生涯学習センターにおいては、生涯学習拠点施設として、運営方法等も踏まえた今後の施設のあり方について検討します。

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(5)各地域の生涯学習関連施設を拠点とした生涯学習の推進
3	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 各地域の公民館やコミュニティセンター等の生涯学習関連施設において、市民が身近な場所で、自由な時間帯に、主体的に学習活動を行うことができる環境の確保や、持続可能な社会づくりの担い手を育むための学習活動を推進します。 ● 生涯学習センターの運営のあり方について、生涯学習拠点施設の機能がさらに充実するよう、指定管理の導入も視野に入れ、検討を行います。

◇ 事業内容

10	事業名	天文観覧室運営事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	天文について分りやすく解説し自然科学の普及を図るため、プラネタリウムの投影や市民天体観望会を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	天文観覧室（プラネタリウム）開館日数	人	149	173	204	-	150(R5)
	②	天文観覧室（プラネタリウム）投影回数	人	275	426	556	-	400(R5)
	③	天文観覧室（プラネタリウム）利用者数	人	2475	6719	9414	-	7000(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A プラネタリウムの新施設移転を見据え、学習投影等のニーズに対応するため、オリジナル番組の制作を行った。また、おにクル開館に向けて、移転の準備、指定管理に向けた調整を進めた。					
課題	円滑な移転に向けて、おにクル指定管理者と調整する必要がある。							
今後の方向性	おにクル開館に向けて、パンフレットの作成や物品の移転などの準備を進めるほか、内部の規則改定やおにクル指定管理者との調整を進める。							
11	事業名	市立ギャラリー運営事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	美術作品を展示することにより市民の美術に関する創作及び鑑賞活動を促進し、美術を通じて市民文化の振興を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	入場者数	人	8748	11216	18163	-	18500(R5)
	②	市立ギャラリー稼働率	%	44	65	82	-	83(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 新型コロナウイルス感染拡大が続く中、入場者数は顕著に回復を見せ、過去の状態に復帰した結果となりました。今後はコロナ渦で離れてしまった利用者・入館者向けの取り組み等が必要と感じられる結果となりましたので、B評価とします。					
課題	新型コロナウイルス感染症対策が緩まる動きがあることから、コロナ渦で離れてしまった利用者の方や、新規の方への利用促進対策が求められます。							
今後の方向性	感染症対策を講じつつ、今後も利用者数の増加に向けた対策を行っていきます。							

12	事業名	スポーツ施設管理運営事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	スポーツ推進課			
	再掲	-						
	事業内容	スポーツ推進計画に基づき、市民が安全に安心して快適にスポーツ活動ができるよう、市民体育館・市民プール及び運動広場等の適切な管理・運営を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	グラウンド利用者数（フットサル場を含む）	人	329585	326157	433507	-	500000(R5)
	②	テニスコート利用者数	人	204033	173762	239891	-	250000(R5)
	③	市民体育館（4館）利用者数	人	253185	237442	305701	-	320000(R5)
	④	市民プール（夏期除く）利用者数	人	25986	29213	41321	-	42000(R5)
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B					市内スポーツ施設の効率的・効果的な運用を行うことができた。
課題	市内スポーツ施設が全般的に老朽化しており、多額の修繕費や更新費が発生している。							
今後の方向性	今後、市民のスポーツ活動の動向やニーズを勘案して、スポーツ施設の適正化の検討を進める。							
13	事業名	資料情報収集提供事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	中央図書館			
	再掲	-						
	事業内容	市民の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的に、図書、視聴覚資料、データベース等記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、市民の利用に提供する。また読書案内やレファレンス・サービス（調べもの支援）などで、利用者が必要な資料を結びつける。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	蔵書冊数	冊	1258319	1263106	1266627	-	1250000(R5)
	②	貸出点数	点	3063456	3236933	3570988	-	3600000(R5)
	③	録音図書・点字図書所蔵状況	タイトル	2499	2555	2560	-	2600(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B					行政資料30タイトルを電子書籍としてHPで公開した。また郷土レファレンス公開事例を187件に増やし、広く情報発信することで、利用者の調査研究を支援した。 図書館利用や読書に障害のある方への、音訳資料・点訳資料の提供や郵送サービスを引き続き実施した。
課題	資料や、提供媒体が多様化しており、今後ますますDX化に対応した資料・情報の収集・提供が必要である。 課題解決の場としての図書館機能の周知を図る必要がある。							
今後の方向性	商用データベースや電子雑誌等の電子資料の拡充等を図る。 レファレンスサービスが活発に利用されるよう周知に努める。							
14	事業名	ローズWAMにおける男女共同参画推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	男女共同参画社会の実現に向けて、市民と協働して、各種事業の実施や情報収集及び提供等、センターの運営を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	ネットワークギャラリー図書貸出冊数	冊	3702	4889	5073	-	6000(R5)
	②	貸館利用率	%	44	48.5	47.2	-	60(R5)
	③	貸室利用者数	人	30826	44669	65081	-	65000(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B					新型コロナウイルス感染症感染防止のための利用制限を緩和した。活動実績は目標に達しなかったが、徐々にコロナ禍前の水準に戻つつある。また、WAM通信の発行やSNSの運用などにより情報の提供を行った。
課題	新型コロナウイルス感染症感染防止のための利用制限を緩和したことにより来館者が増加したことに伴い、図書の貸出冊数も増加少している。 男女共同参画に関する学習をする人を支援するため、図書の有効活用について更に検討が必要である。							
今後の方向性	講演会や主催行事の開催にあわせて図書の特集展示を行うなど、図書の利活用を工夫する。また、図書以外の媒体の活用も含めて、より効果的な情報提供や学習活動の支援について検討する。							

15	事業名	【再掲】いのち・愛・ゆめセンター運営事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	社会福祉法及び基本的人権尊重の精神に基づき、地域交流及び住民福祉の向上をめざし、市民に対する人権啓発を推進し、人権課題の解決を図り、人権が尊重される社会の実現に資することを目的に、各種事業や、地域交流、情報収集、貸館等を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	施設利用者数	人	57664	63988	90423	-	80000(R5)
	②	センターニュース発行	部	85000	87000	89400	-	90000(R5)
	③	講座等参加者数	人	2442	5407	7705	-	5000(R5)
	④	まつり参加者数	人	616	268	1509	-	1000(R5)
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B					コロナ禍の影響もある中、まつり等地域交流行事を開催し、オンラインでの開催等の工夫も行った効果もあり、以前に近い人数の参加が見込めるようになった。また、多文化共生の推進に向けて、外国人住民への学びと交流の場の提供、サポーターの育成等も継続して行なった。
課題	多文化共生支援に取り組む各課との連携を図るとともに、地域社会での外国人住民の孤立といった昨今の課題に対応できるよう外国人住民への情報提供や相談体制を強化、また、外国人住民の活躍の場を提供する必要がある。							
今後の方向性	人権尊重の視点を軸とした上で、コロナ禍を含め、時世の住民ニーズに敏感に対応し、求められる事業の試行等を積極的に取り組む。							
16	事業名	【再掲】茨木市人権センター補助事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	人権が守られた豊かで住みよいまちをめざし、憲法で保障された基本的人権尊重の精神に基づき、あらゆる差別をなくすよう市民の人権意識の普及・高揚を促進するため、各種事業を実施する茨木市人権センターに対し、市が補助金を交付することにより、人権尊重の社会づくりに寄与する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	人権に関する講演会・バスツアー実施回数	回	2	3	6	-	6(R5)
	②	人権相談	人	54	62	30	-	80(R5)
	③	人材の養成講座の実施回数	回	3	3	3	-	8(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B					新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながら、講演会、バスツアー等の実施に取り組み、参加者の確保に努めるとともに、対象者に寄り添った相談となるよう取り組んだ。
課題	啓発の推進のためさらに参加者等を増やす必要がある。							
今後の方向性	社会情勢や時代のニーズに合った内容・手法の検討等、効果的な事業を継続して実施する。							
17	事業名	上中条青少年センター運営事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	青少年の情操を養い、教養の向上及び健康の増進を図るとともに、自主的、組織的な青少年活動を助長することによって、青少年及び青少年団体の健全な育成及び人権文化の高揚を図るため、体験活動や文化的交流行事を実施するとともに、自主的・組織的な青少年活動を支援するため、貸館事業を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	利用者数	人	26701	29643	41236	-	40,000 (R5)
	②	貸室稼働率	%	51.8	56.3	60.6	-	60 (R5)
	③	センター主催事業参加人数	人	319	855	871	-	1,000 (R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B					センター主催事業については、実施時期や参加人数を制限し、感染対策を行った上で工作を中心に実施したことで、多彩な体験活動の機会を提供することができた。ふれあいコンサート等については、HPや広報を活用することで、多くの子ども達に文化的な学びを提供することができた。また、学習室・貸館については青少年センターだより等での周知により利用者数は増加した。
課題	子どもに関心を持ってもらえるセミナー等を企画・検討するため、引き続き大学生や関係団体と連携を図る。							
今後の方向性	上中条青少年センターにおいては、青少年にかかわる社会情勢の変化に応じ、事業の企画や効果を見直しながら、青少年の体験活動の充実を図る。							

18	事業名	ふれあい農園管理事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	農林課			
	再掲	-						
	事業内容	自然にふれあう機会と農業を体験する場を提供するため、市民農園の管理運営を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	各ふれあい農園利用区画数	区画	170	170	177	-	177(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の 取組内容 及び成果	評価	コロナ禍において、これまでの生活から様々な制約が課される中、レクリエーションや生きがいづくりの場として、市民農園が注目されたことにより全区画が利用された。					
	A							
課題	ふれあい農園利用者の主な目的はレクリエーションや生きがいづくりとしつつ、その中から農業を志す方を期待しているが出てこない。							
今後の 方向性	ふれあい農園内の掲示板等を活用し、新規就農等についての情報提供を行う。							

【基本目標】

2 ひとつづくり

◇ 基本目標

1	基本目標	2 ひとつり
		市民の学習ニーズに対応できる生涯学習社会の進展に向けて、地域社会における人・団体の連携、協力や協働等を促進し、生涯学習活動を支える担い手の育成に努めます。 また、学びづくりやまちづくりの新たな担い手の発掘・育成に努め、学んだ成果を発揮するとともに、社会貢献や社会奉仕ができるよう、学習機会の提供や社会活動への参加・参画への支援に取り組めます。

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(1)生涯学習活動団体等への支援
3	取組内容	● 生涯学習活動団体や「社会教育の推進を図る活動」、「まちづくりの推進を図る活動」、「学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動」、「子どもの健全育成を図る活動」などの様々な活動を行っているNPO法人等に対し、市のイベント情報の提供や、生涯学習活動団体が情報を発信する機会の提供に努めます。

◇ 事業内容

1	事業名	青少年活動・育成事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	こども会をはじめとした青少年団体等や、これらの青少年を育成する組織が活発な活動を展開するための情報や活動機会の提供に努め、青少年教育活動の推進を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	こども会結成数	こども会	189	172	158	-	150 (R5)
	②	こども会加入率	%	30.8	26.4	22.4	-	22 (R5)
	③	こども会サポーター登録者数	人	38	41	44	-	44 (R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B こども会数については、茨木市こども会育成連絡協議会の協力で「レクリエーションのつどい」を実施し、未加入者のこども会加入のきっかけとなったが、地域の実情によりこども会を継続することが困難なこども会があるため、こども会数は減少した。					
課題	こども会結成数・こども会加入率ともに減少傾向にある。							
今後の方向性	育成者の負担軽減等を図るとともに、こども会加入のきっかけとなる事業を、茨木市こども会育成連絡協議会と連携して提供していく。							
2	事業名	【再掲】茨木市廃棄物減量等推進員活動促進事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	資源循環課			
	再掲	-						
	事業内容	各自治会等からの推薦により廃棄物減量等推進員を委嘱し、市から推進員に定期的に情報提供（推進員ニュース年6回発行）を行うことにより、推進員を地域のリーダーとして各地域におけるごみの減量化と再資源化、災害時の一般廃棄物の分別を促進する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	見学会・研修会	回	1	1	2	-	2 (R5)
	②	廃棄物減量等推進委員人数	人	402	407	400	-	403(R5)
	③	推進員ニュース配布数	部	3054	3228	3273	-	3500(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 委嘱の際には茨木市のごみの現状や活動内容等を示した手引きにて制度の説明を行うとともに、隔月での推進員ニュース発行やダンボールコンポストや食品ロスに関する研修会の実施により、ごみ減量や再資源化について意識啓発を図っている。2年ごとの委嘱の際には、市内全ての自治会宛に推進員の推薦依頼を行っているが、目標人数には達していない。					
課題	自治会構成員の高齢化や自治会の未結成などにより、推進員の推薦が困難な地域があり、また、活動内容にも地域差が見受けられる。自治会未結成な地域については、地域の各種団体からの選出も視野に入れ、推進員の人数確保を検討する必要がある。							
今後の方向性	地域での推進員の効果的な取組を推進員ニュース等を通じて周知し、ごみの減量と再資源化への協力を促すとともに、推進員の選出率の向上をめざす。 今後、推進員の意向を確認しつつ、知識及び意欲の向上に資する取組を検討していく。							

◇ 基本目標

1	基本目標	2 ひとつり
		市民の学習ニーズに対応できる生涯学習社会の進展に向けて、地域社会における人・団体の連携、協力や協働等を促進し、生涯学習活動を支える担い手の育成に努めます。 また、学びづくりやまちづくりの新たな担い手の発掘・育成に努め、学んだ成果を発揮するとともに、社会貢献や社会奉仕ができるよう、学習機会の提供や社会活動への参加・参画への支援に取り組めます。

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(2)学びの成果の活用とボランティア活動団体への支援
3	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 生涯学習センターにおけるきらめき講座等の講座受講後の継続的な学習や活動を支援します。 ● 学びや体験の成果を活かし、指導者として活躍する機会を提供できるよう、生涯学習センターボランティア講師による講座や、放課後子ども教室、公民館・コミュニティセンター等の講師など、出番づくりを支援します。 ● 生涯学習センターにおいて、市民活動センターやボランティアセンターなどの関係機関と連携を図り、ボランティア活動の支援に努めます。

◇ 事業内容

3	事業名	生涯学習参画事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	個人や団体が培った知識・経験を広く還元できる場を提供し、学習成果を活かした幅広いジャンルの学習参画機会を提供する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	ボランティア講座実施件数	件	7	22	16	-	20(R5)
	②	ランチタイムコンサート開催数	件	29	44	49	-	50(R5)
	③	きらめきフェスタ参加者数	人	中止	1728	2889	-	3,000(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 引き続き、個人等が培った学びや体験等の成果を発表や指導者として活躍する機会として、ボランティア講師による講座の実施や公募で演奏者等を募るランチタイムコンサートを実施した。また、生涯学習センターで実施している各種主催講座、ランチタイムコンサート出演団体等が日頃の活動の成果を講座開催・発表・展示などを行うことにより、参加者自身のさらなるスキルアップとグループ内外の交流の促進を繋げることができた。					
課題	引き続き、個人や団体が日頃培った知識や経験を還元できる場を提供し、学習参画する機会を提供する必要がある。							
今後の方向性	新たな個人講師等を発掘するために、ボランティア講師等の募集について情報発信を行う。							

◇ 基本目標

1	基本目標	2 ひとつり
		市民の学習ニーズに対応できる生涯学習社会の進展に向けて、地域社会における人・団体の連携、協力や協働等を促進し、生涯学習活動を支える担い手の育成に努めます。 また、学びづくりやまちづくりの新たな担い手の発掘・育成に努め、学んだ成果を発揮するとともに、社会貢献や社会奉仕ができるよう、学習機会の提供や社会活動への参加・参画への支援に取組みます。

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(3)地域人材の発掘と活用
3	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域社会で生涯学習活動を行っている方を、地域人材として発掘するとともに、その地域人材が地域社会で生涯学習活動を推進していくことができるよう、指導者として育成、養成することのできる仕組みづくりを検討します。 ● 障害のある人や高齢者、外国人など、すべての人々が生涯学習活動を実施することができるよう、支援者の育成や学びの機会の提供を検討します。

◇ 事業内容

4	事業名	スポーツ団体・指導者育成事業						
	担当課	(部名)	市民文化部		(課名)	スポーツ推進課		
	再掲	1 まなびづくり、(1)生涯学習へのきっかけづくり、①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習へのきっかけづくりの推進						
	事業内容	スポーツ推進計画に基づき、スポーツを支える指導者等の人材の育成を行うとともに、スポーツ関係団体や老人クラブ等の地域に根ざして活動する団体、大学、企業等、関係団体と連携・協働することにより生涯スポーツ環境の充実を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	生涯スポーツ指導者養成講習会参加者数	人	29	30	92	-	100(R5)
	②	少年スポーツ指導者研修会参加者数	人	51	41	19	-	50(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 多様化する市民のスポーツニーズに対応した正しいスポーツの知識や技術の習得に寄与した。また、スポーツ関係団体間の連携、協働事業により市内のスポーツ活動の活性化が図れた。					
課題	スポーツ関係団体の活動人材が不足しており、また団体の運営を担う人材も高齢化している。							
今後の方向性	さらなるスポーツ活動の充実を図るため、協働イベントの開催などによりスポーツ関係団体間の連携を強化する。 また、その担い手である指導者の確保・育成に取り組む。							
5	事業名	高齢者関係団体育成・支援事業						
	担当課	(部名)	福祉部		(課名)	地域福祉課		
	再掲							
	事業内容	高齢者のために事業を展開する様々な団体を育成・支援することにより、高齢者の多様なニーズに対応し、充実した生活を実現する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	老人クラブ会員数	人	6540	6278	6081	-	6250(R5)
	②	はつらつバス使用実績	件	0	29	63	-	134(R5)
	③	シルバー人材センター会員数	人	1533	1567	1574	-	1690(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	C 新型コロナウイルス感染量の流行により中止していたはつらつバス供与事業を令和3年度から再開した。令和4年度にやや配車台数が増加したが未だ少なく、老人クラブの会員数は毎年減少の一途をたどっている。					
課題	高齢者世代になっても働き続ける人が増加するなどの社会背景の変化もあり、60歳代をはじめ老人クラブ加入者が著しく減少傾向にある。各単位老人クラブを中心に会員増強に努めているが、担い手の高齢化、その他会員数の自然減少により、思うように効果が得られていない。担い手の不足により解散となるクラブも増えている。また、茨木市老人クラブ連合会を運営している理事の高齢化が進む一方で、新たな担い手の育成がうまくいっていない。							
今後の方向性	今後どうすれば老人クラブとその活動に興味を持ってもらえるか引き続き検討していく。また、今後も事業を継続するために、茨木市老人クラブ連合会を運営している理事や老人クラブの会長等、後継者の育成に力を入れていく。							

6	事業名	社会教育関係団体育成事業						
	担当課	(部名) 教育総務部	(課名) 社会教育振興課					
	再掲							
	事業内容	社会教育関係団体の活動を促進し、社会教育の振興を図る。社会教育関係団体等を対象とした後援等により支援する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	後援件数	件	35	38	60	-	60(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価 A	団体が行う事業への後援については、コロナ禍において申請件数が減少していた昨年度と比較して大きく増加した。					
課題	コロナ前の水準に戻りつつある社会教育活動の支援。							
今後の方向性	後援事務の適切な執行により、社会教育関係団体等の活動支援を図る。							
7	事業名	茨木市廃棄物減量等推進員活動促進事業						
	担当課	(部名) 産業環境部	(課名) 資源循環課					
	再掲	2 ひとつくり、(1)生涯学習活動団体等への支援						
	事業内容	各自治会等からの推薦により廃棄物減量等推進員を委嘱し、市から推進員に定期的に情報提供（推進員ニュース年6回発行）を行うことにより、推進員を地域のリーダーとして各地域におけるごみの減量化と再資源化、災害時の一般廃棄物の分別を促進する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	見学会・研修会	回	1	1	2	-	2(R5)
	②	廃棄物減量等推進委員人数	人	402	407	400	-	403(R5)
	③	推進員ニュース配布数	部	3054	3228	3273	-	3500(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価 B	委嘱の際には茨木市のごみの現状や活動内容等を示した手引きにて制度の説明を行うとともに、隔月での推進員ニュース発行やダンボールコンポストや食品ロスに関する研修会の実施により、ごみ減量や再資源化について意識啓発を図っている。2年ごとの委嘱の際には、市内全ての自治会宛に推進員の推薦依頼を行っているが、目標人数には達していない。					
課題	自治会構成員の高齢化や自治会の未結成などにより、推進員の推薦が困難な地域があり、また、活動内容にも地域差が見受けられる。自治会未結成な地域については、地域の各種団体からの選出も視野に入れ、推進員の人数確保を検討する必要がある。							
今後の方向性	地域での推進員の効果的な取組を推進員ニュース等を通じて周知し、ごみの減量と再資源化への協力を促すとともに、推進員の選出率の向上をめざす。 今後、推進員の意向を確認しつつ、知識及び意欲の向上に資する取組を検討していく。							

【基本目標】

3 まちづくり

◇ 基本目標

1	基本目標	3 まちづくり
		市民のこころ豊かな生活をめざすとともに、地域社会の問題や地域課題を解決するための学習機会の充実を図ります。また、学校・家庭・地域組織・団体の相互の連携・協力によって生涯学習活動を推進し、家庭と地域社会の教育力を高め、地域コミュニティづくりを進めます。 また、人口の減少が見込まれる中、人口減少に歯止めをかけるためにも、郷土「茨木」に対する誇りや愛着を深めるとともに、地域の資源を活かすことで自然や文化、歴史、伝統芸能等を学習、体験する機会を創出していきます

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(1)地域社会の教育力の活用
3	取組内容	● 各小学校において、地域住民の参画を得て放課後子ども教室を実施し、遊びや学習、体験活動の機会を通して子どもたちに安全・安心な居場所の提供に努めます。また、大学生等に子どもと関わる機会を提供するため、放課後子ども教室でのボランティア体験の充実に努めます。

◇ 事業内容

1	事業名	学童保育事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	学童保育課			
	再掲	-						
	事業内容	保護者が子育てと就労を両立できるよう、小学校に通う児童に安心して利用できる放課後等の居場所を提供する。また、放課後子ども教室と連携することにより、児童が多様な体験・活動を行うことができ、地域社会全体で児童の健全育成を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	開設保育室数（クラス数）	室	69	70	71	-	74 (R5)
	②	待機児童数（一斉受付申請分）	人	0	0	0	-	0 (R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 小学校と調整し場所の確保を行ったほか、夏季休業期間預かり事業を30小学校で実施したことで、通年利用に加えて夏季のみの選択肢が整った結果、一斉受付時における待機児童数は0人となった。					
	課題	待機児童を発生させないために場所の確保が必要である。						
今後の方向性	学童保育室の新築を実施するなど、小学校や教育委員会と調整し、必要に応じて教室確保に努めていく。また、夏季休業期間預かり事業を継続するとともに、民間事業者に対する補助を実施することで、待機児童が発生しないよう努めていく。							
2	事業名	放課後子ども教室推進事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	放課後等にこどもたちの安全で健やかな居場所を確保するため、地域住民の参画を得て、こどもたちと諸活動に取組み、地域社会全体で地域のこどもたちを見守り育むことができるよう、啓発と活動の充実を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	実施校数	校	-	18	32	-	32 (R5)
	②	実施日数	日	-	200	1167	-	1,400 (R5)
	③	放課後子ども教室への児童登録率	%	-	36.6	49.6	-	65 (R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B コロナ禍における教室運営の工夫点について代表者連絡会等で共有を図り、感染症対策を行った上で、地域の実情に応じて活動を実施した。また、新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインの改訂を重ね、代表者連絡会で周知を図ることや、救急救命研修でスタッフの安全管理能力を向上させることで、実施日数の増加に繋げることができた。					
	課題	放課後子ども教室については、コロナ禍による中止と再開を繰り返していたことにより、スタッフが不足しており、新たな人材確保の手法を検討していく必要がある。						
今後の方向性	今後の感染状況を踏まえ、引き続き、適切な実施可能の判断と、安全・安心な居場所の提供に努める。							

◇ 基本目標

1	基本目標	3 まちづくり
		市民のこころ豊かな生活をめざすとともに、地域社会の問題や地域課題を解決するための学習機会の充実を図ります。また、学校・家庭・地域組織・団体の相互の連携・協力によって生涯学習活動を推進し、家庭と地域社会の教育力を高め、地域コミュニティづくりを進めます。 また、人口の減少が見込まれる中、人口減少に歯止めをかけるためにも、郷土「茨木」に対する誇りや愛着を深めるとともに、地域の資源を活かすことで自然や文化、歴史、伝統芸能等を学習、体験する機会を創出していきます

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(2)学校、家庭、地域組織・団体の連携促進によるコミュニティづくりの推進
3	取組内容	● 地域社会における生涯学習に関する様々な資源を有効に活用し、学校・家庭・地域組織・団体がそれぞれの役割を果たしながら互いに連携し、地域社会のコミュニティづくりに努めます。

◇ 事業内容

3	事業名	市立幼稚園子育て支援事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	保育幼稚園総務課			
	再掲	-						
	事業内容	園舎・園庭を開放し、在園児や職員及び未就園児親子同士の活動を通して保護者同士の交流を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	園庭開放参加人数	人	1287	1104	1983	-	2000(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 園舎・園庭を開放し、在園児や職員及び未就園児親子同士の活動を通して保護者同士の交流を図り、子育て支援を図ることができた。					
課題	新型コロナウイルス感染症対策のため、1回ごとの参加組数を制限している期間があったため、参加人数が限られてしまった。							
今後の方向性	新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、参加組数の制限の緩和する等、参加者数の確保に努める。							
4	事業名	市立保育所子育て支援事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	保育幼稚園総務課			
	再掲	-						
	事業内容	保育所を開放し、在宅の親子と保育所の子どもたちや地域の人々との交流を促進し、在宅の親子を支援する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	ともだちひろば（園庭開放）	件	117	114	197	-	200(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 園庭開放により、子どもや保護者の居場所づくりに努め、子育て支援を図ることができた。					
課題	新型コロナウイルスに感染することを心配している方でも参加できるようにリモートで相談できるように準備を進めたが、利用にはつながらなかった。							
今後の方向性	園庭開放時に相談が多いことから、予約なしでも参加可能にするなど、より多くの方が参加できるように工夫する。							

5	事業名	利用者支援事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	子どもが健やかに成長することができる地域社会の実現に寄与するため、子ども及びその保護者等、または妊娠している方がその選択に基づき多様な教育、保育施設、地域の子育て支援事業等を円滑に利用できるような必要な支援を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	基本型	件	480	329	703	-	質的充実
	②	母子保健型	件	214	123	168	-	質的充実
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B					ハンドブックを発行・配布するとともに、HP等さまざまな媒体を通して情報発信を行った。また、アウトリーチも含めた相談を実施するとともに、関係機関との連携強化に向けた調整会議を行った。
課題	SNS等様々な媒体を活用した情報発信による、周知啓発が必要である。							
今後の方向性	市民のニーズに対応できるように地域の社会資源等の情報を収集し、地域との連携を深めるとともに、SNS等様々な媒体を活用し相談ニーズに対応する。							
6	事業名	子育て支援ネットワーク事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	4か月から1歳の誕生日までの乳児と保護者を地域の中で交流できる場を提供し、保護者同士のつながりのきっかけ作りと情報交流を促す。また、子育てに関わる機関・団体・民生委員・児童委員等の支援者と、子育て中の保護者団体等の当事者が構成する連絡会を開催し、子育て						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	あかちゃんあそび	人	452	463	555	-	600(R5)
	②	子育て支援団体連絡会	回	0	0	10	-	質的充実
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B					①開催場所を5か所にしたが、参加人数は設定した人数で開催し、定員に達しない回もあった。R4.10月よりオンラインでの開催を開始し、参加人数も増えている。 ②5地区でオンラインでのネットワーク会議を開催。ネット環境がない団体はつどいの広場等に出向いてもらい、参加をお願いした。
課題	①保育所やつどいの広場での参加を増やすため、会場を限定するが、つどいの広場がない地域で開催予定。定員に満たない場所もあるので、チラシで周知していく。 ②ネットワーク環境が整ったため、オンラインで各地域で2回開催したが、今後は対面での実施の再開についても検討していく。							
今後の方向性	①新たに開館する文化・子育て複合施設における実施も含めて、開催場所・日程等をニーズに合わせて検討する。 ②オンラインでの連絡会や、ネットワーク等、地域の子育てに携わる人を対象した研修などを検討する。							
7	事業名	地域子育て支援拠点事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	就学前児童とその保護者が気軽に集える場を設置し、地域の中で安心して子育て・子育てができる環境を整備するとともに、公私立保育所(園)に地域子育て支援センターを設置し、子育て世帯に対して専門的な支援を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	広場開設数	か所	20	20	20	-	23(R5)
	②	広場来所者数	人	47109	43975	68175	-	70000(R5)
	③	地域子育て支援センター開設数	か所	5	5	5	-	5(R5)
	④	地域子育て支援センター来所者数	人	7297	6615	10401	-	11000(R5)
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B					地域子育て支援拠点では、新型コロナウイルス感染状況に応じ利用予約制や縮小開所もみられましたが、絵本やおもちゃの貸出、おもちゃ制作キットの配布や子育て相談の実施など、工夫をこらした支援を行いました。また、ICTを利用した講座や相談、総合センターとつどいの広場の連携によるオンラインコンサート開催など、WITHコロナの新たな取組も広がった。
課題	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、コロナ禍で減少していた交流・情報交換の機会を感染状況に応じ柔軟に対応しつつ、実施していく必要があります。							
今後の方向性	子育ての孤立化を防ぐため、オンラインでの子育て支援も継続しつつ、対面での交流や相談、情報提供の場をつくるよう努める。							

8	事業名	青少年健全育成事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	青少年健全育成運動を推進し、より一層の青少年育成を図るために青少年問題協議会が青少年育成の方針を樹立し、関係機関・団体と有機的に連携をとりながら、青少年育成のための諸事業の実施及び問題行動の防止等に努める。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	茨木市青少年健全育成事業補助金交付団体数	団体	52	51	55	-	80(R5)
	②	青少年が行事の一部を担当した割合	%	75	74	77	-	75(R5)
	③	青少年による青少年のためのイベントに参加した高校生・大	人	-	91	141	-	100(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	「ほっとけん！アワード」、「青少年による青少年のためのイベント」、青少年指導者向けの研修等の事業を実施し、地域での大人と子どもの顔の見える関係づくりや、イベントに参加した子ども・生徒・学生の異年齢の交流や自己有用感を感じる機会の提供、青少年指導者の育成などが推進できた。					
	B							
課題	コロナ禍の影響で青少年育成行事が中止・縮小している。 SNS等に起因するトラブルに青少年が巻き込まれる可能性がある。							
今後の方向性	地域での取組を促進する方策を検討するとともに、異年齢交流や自己有用感を感じる機会の提供を図っていく。 SNS等のトラブルから青少年を保護するため、最新の情報を青少年の指導者や保護者に向けて周知・啓発する。							
9	事業名	家庭教育支援事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	1 まなびづくり、(1)生涯学習のきっかけづくり、①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習のきっかけづくりの推進						
	事業内容	家庭教育を支援するために学校と連携しながら、保護者同士が交流し学びあう家庭教育学級の開設や、家庭教育講座等学習機会の提供等を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	講習・講座の開設数	回	91	112	135	-	130(R5)
	②	講習・講座の参加者数	人	1054	1208	1506	-	1300(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	学生NPOと連携した講座事業の企画・実施や、引き続きオンラインの活用を図るなど、コロナ禍においても順調に実施しており、参加者数の増加に繋がった。					
	B							
課題	家庭教育学級参加者数の減少や親学びサポーターのなり手不足。							
今後の方向性	上記課題の解決のため、将来に向けた新たな実施手法の検討が必要。							

◇ 基本目標

1	基本目標	3 まちづくり
		市民のこころ豊かな生活をめざすとともに、地域社会の問題や地域課題を解決するための学習機会の充実を図ります。また、学校・家庭・地域組織・団体の相互の連携・協力によって生涯学習活動を推進し、家庭と地域社会の教育力を高め、地域コミュニティづくりを進めます。 また、人口の減少が見込まれる中、人口減少に歯止めをかけるためにも、郷土「茨木」に対する誇りや愛着を深めるとともに、地域の資源を活かすことで自然や文化、歴史、伝統芸能等を学習、体験する機会を創出していきます

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(3)地域課題解決のための生涯学習の充実
3	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 各地域が抱える課題や問題を地域社会で解決することができるよう、健康、人権、男女共同参画、家庭・家族、消費者問題、交通、科学技術、情報化、雇用等の課題に関する講座の充実に努めます。

◇ 事業内容

10	事業名	【再掲】生涯学習センター出前講座実施事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	市内で活動されている団体等が、自発的に学びたいメニューを選択できるよう、市の様々な事業や施策について講座を受けられるように出前講座を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	出前講座メニュー数	件	119	117	119	-	119(R5)
	②	出前講座実施件数	件	242	132	272	-	300(R5)
	③	出前講座受講者数(延人数)	人	12141	2953	9176	-	10,000(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 市民等が多様な分野における市の事業や施策について学ぶ機会が提供できるように、出前講座を実施した。また令和4年度は、新型コロナウイルス感染症対策の緩和により、受講生数が大幅に増加した。					
課題	市の多様な事業や施策について学ぶ機会が提供できるよう、講座情報の発信を行う必要がある。							
今後の方向性	引き続き、各課の講座情報を集約し、講座情報の発信を行う。							
11	事業名	母子・父子福祉事業						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	こども政策課			
	再掲	-						
	事業内容	生活困窮世帯・ひとり親家庭の中学生を対象に学習支援を実施します。また、生活上の問題や進路選択(進学に要する費用や奨学金など)に関する各種相談に応じます。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	継続参加率	%	50	56	50	-	70(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 参加生徒に対して、学習・生活両面で充実した支援を実施した。中学校の最初の家庭訪問後に各学校を周って、利用中の生徒や案内したい生徒の情報交換を校長先生等と行った。また、児童扶養手当現況時には対象となりそうな生徒の保護者に直接案内をするなど、必要な生徒に本事業がつながるよう事業周知を行った。					
課題	利用の継続が難しい生徒もあり、支援が必要な生徒に繋がりにくい。 今後とも、参加が望まれる生徒に支援が届くよう、様々な方法で周知を図る必要がある。また、支援が必要な家庭に直接的な情報提供と手続きの支援が必要であるため、今後とも対象世帯への利用促進を進める。							
今後の方向性	未登録の対象生徒やその家族に対し、継続的な利用勧奨を実施する。							

12	事業名	【再掲】ローズWAM相談事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	-						
	事業内容	市民の、とりわけ女性の相談を様々な切り口で実施することを通して、市民生活をサポートする。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	女性相談件数	件	2084	2113	2038	-	-
	②	特別相談件数	件	155	110	105	-	-
	③	相談関係研修等参加者数	人	25	20	35	-	30(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A 複雑化する相談内容に対応するため、関係部署や関係機関と連携したケース対応を行った。					
課題								
今後の方向性	困難な問題を抱える女性への支援に関する法律の施行に伴い、さらに相談件数の増加、相談内容の複雑化が予想される。人員増強を含め体制整備を行う必要がある。							
13	事業名	地域における男女共同参画推進事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	1 まなびづくり、(1)生涯学習へのきっかけづくり、①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習へのきっかけづくりの推進						
	事業内容	地域における男女共同参画を促進するため、地域と協働して男女共同参画の推進に資する講座等の実施及び市民の自主的な男女共同参画活動を支援する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	市民協働企画講座開催回数	回	9	83	104	-	50(R5)
	②	市民協働企画参加人数	人	281	1559	1774	-	500(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A ローズWAM 1階の喫茶スペースを活用しての「WAMcafe」企画として男女共同参画に資する事業や公益活動事業の実施が増加し、多くの方に利用していただいた。					
課題								
今後の方向性	喫茶スペースの利活用について大学に情報提供を行い、若年層の視点や専門的な視点を取り入れた事業展開を行う。							
14	事業名	いのち・愛・ゆめセンター運営事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	人権・男女共生課			
	再掲	1 学びづくりへの取組、(5)各地域の生涯学習関連施設を拠点とした生涯学習の推進						
	事業内容	社会福祉法及び基本的な人権尊重の精神に基づき、地域交流及び住民福祉の向上をめざし、市民に対する人権啓発を推進し、人権課題の解決を図り、人権が尊重される社会の実現に資することを目的に、各種事業や、地域交流、情報収集、貸館等を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	施設利用者数	人	57664	63988	90423	-	80000(R5)
	②	センターニュース発行	部	85000	87000	89400	-	90000(R5)
	③	講座等参加者数	人	2442	5407	7705	-	5000(R5)
	④	まつり参加者数	人	616	268	1509	-	1000(R5)
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B コロナ禍の影響もある中、まつり等地域交流行事を開催し、オンラインでの開催等の工夫も行った効果もあり、以前に近い人数の参加が見込めるようになった。また、多文化共生の推進に向けて、外国人住民への学びと交流の場の提供、サポーターの育成等も継続して行なった。					
課題								
今後の方向性	多文化共生支援に取り組む各課との連携を図るとともに、地域社会での外国人住民の孤立といった昨今の課題に対応できるよう外国人住民への情報提供や相談体制を強化、また、外国人住民の活躍の場を提供する必要がある。							
今後の方向性	人権尊重の視点を軸とした上で、コロナ禍を含め、時世の住民ニーズに敏感に対応し、求められる事業の試行等を積極的に取り組む。							

15	事業名	食育推進事業						
	担当課	(部名)	健康医療部	(課名)	健康づくり課			
	再掲	0						
	事業内容	市民が規則正しく、栄養バランスのとれた食事をする事で、健康な身体を維持するとともに、「食」を通じて、食卓を囲む人同士のコミュニケーションを豊かにし、こころの充実が図れる環境づくりを目指す。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	食育SAT（健康づくりセミナー）	回	9	9	14	-	12(R5)
	②	出前講座	回	3	1	10	-	5(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A コロナの規制緩和に伴い、食育SAT（健康づくりセミナー）は実施回数を増やし、目標値を上回った。出前講座もコロナ禍で依頼が減少していたが、R4年度は徐々に回復し、目標値を達成した。					
課題	健康づくりセミナーは若年健診時に限り実施している講座になるが、出前講座ではさまざまなライフステージに合わせた学習機会の提供や健康づくりの啓発を行うことが課題である。							
今後の方向性	より多くの市民の健康づくりに寄与できるように、出前講座の実施回数の増加や内容の充実を図る。また、学校や地域団体等からなる茨木市食育推進ネットワークで連携・協力し、イベント等を実施することにより、「食」について考え、体験できる環境づくりを目指す。							
16	事業名	健康増進事業						
	担当課	(部名)	健康医療部	(課名)	健康づくり課			
	再掲	-						
	事業内容	健康増進法や「健康いばらき21・食育推進計画(第3次)」に基づき、市民自らの生涯にわたる健康づくりを推進する。自殺対策基本法や「茨木市のいちを支える自殺対策計画」に基づき自殺予防を推進する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	健康教育（健康づくりセミナー）	回	9	9	16	-	12(R5)
	②	歯科疾患健康教育（出前講座）	回	8	13	10	-	10(R5)
	③	ゲートキーパー養成講座	回	1	5	10	-	5(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B コロナ禍で減少していた講座も回復し、全てにおいて目標に達している。成果については、事後アンケートを実施しているものについては、高評価を得られている。					
課題	活動内容が市民に普及しきれていない可能性がある。健康無関心層・低関心層の健康行動につながる情報の提供や啓発等が必要である。ゲートキーパー養成講座に関しては、現在の点の取組みから面的に広げていく必要がある。							
今後の方向性	活動内容や健康情報の周知方法のさらなる検討。ゲートキーパー養成講座の講師役、ゲートキーパーを養成し、より多くの市民に普及していく。							
17	事業名	更生保護推進事業						
	担当課	(部名)	福祉部	(課名)	地域福祉課			
	再掲	-						
	事業内容	法務省の提唱する非行・犯罪を防止する社会啓発運動で住民がそれぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築くための活動を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	市民大会開催数	回	0	1	1	-	1(R5)
	②	啓発ポスター掲示交通社数	社	0	0	5	-	5(R5)
	③	刑務作業製品の販売日数	日	0	0	2	-	2(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A 来場者の検温・手指消毒・人数制限などの感染症対策を行いながら、市民大会や矯正展を実施できた。市民大会においては、定員150人に対し257人の応募があった。また、街頭宣伝活動に替わる新たな取組として、市内の鉄道駅構内、路線バス車内に啓発ポスターを掲出した。					
課題	毎年7月に開催している市民大会の方向性について、市民の方に広く「社会を明るくする運動」を周知することを目的とするか、社明関係団体の更生保護に対する理解を深めることを目的とするかが課題である。							
今後の方向性	新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行し、イベントの制限が解除されるなかで、更生保護活動の周知や啓発の効果的な方法について図っていく。							

18	事業名	両親教室（パパ＆ママクラス）						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	子育て支援課			
	再掲	-						
	事業内容	妊娠中から出産や育児に関する情報提供、相談支援体制の充実を図るため、妊婦やそのパートナー等が参加する講座を実施します。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	実施回数	回	3	6	12	-	増やす
	②	受講者人数	人	131	305	457	-	増やす
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B					妊娠中から出産・育児に関する知識・技術を学ぶ両親教室（パパ＆ママクラス）の開催方式を新型コロナウイルス感染対策として、集団講義形式からオンライン形式に変更し、実施した。多くの医療機関で両親教室の開催が難しい状況下、市民からの人気は高く、実施回によっては多くの参加申込みがあり、講義内容についても好評であった。
課題	オンライン開催のため、沐浴等の育児手技について直接的指導ができなかった。また、オンラインでの参加者交流では会話が続き、十分な交流ができなかった。							
今後の方向性	新型コロナウイルス感染動向に注視しつつ、今後の講座（パパ＆ママクラス）の実施形式の検討が必要である。							
19	事業名	乳幼児療育支援事業(すくすく親子教室)						
	担当課	(部名)	こども育成部	(課名)	発達支援課			
	再掲	-						
	事業内容	療育を必要とする乳幼児が日常生活における基本的な動作の習得及び集団生活に適応することができるよう、適切かつ効果的な集団的療育指導(児童発達支援事業)、相談を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	すくすく親子教室 延利用者数	人	3444	3595	5137	-	4000(R5)
	②	親子ひろば 延利用者数	人	232	206	296	-	250(R5)
	③	電話相談 延利用者数	人	147	207	189	-	180(R5)
	④	外部講師学習会、後援会	人	41	51	25	-	40(R5)
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B					コロナ禍でまだまだ油断できない状況の中ではあるが、前年度に比べると親子ひろばや通所支援利用者が増えた。相談件数は少し減少しているもののニーズに合わせた対応ができたと評価できる。外部講師による学習会や講演会についてもこの情勢の中人数制限をして行うことができ、保護者が知りたい情報を提供できた成果であると評価する。
課題	こども保健グループと連携をしながら健診フォローの強化に努め、引き続き親子への切れ目のない支援をいかに充実したものにしていくかが課題である。							
今後の方向性	発達に課題のあるこどもの健診後の切れ目のない支援体制について、引き続き保護者が安心して子育てできる体制を整えていく。また、おにクルに移転したこども保健グループとの連携を密にし、協議検討を重ねていく。							
20	事業名	地域でのまちづくり推進事業						
	担当課	(部名)	都市整備部	(課名)	都市政策課			
	再掲	-						
	事業内容	市民がまちづくり活動等に参加するきっかけづくりや意識啓発のための事業を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	まちづくり塾開催	回	0	0	0	-	-
	②	いばらきまちづくりラボ開催	回	0	0	0	-	-
	③	太田知恵の和開催	回	2	1	2	-	-
	④	まちづくりアドバイザー派遣	回	1	3	11	-	-
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B					市民が主体的にまちづくりについて考え、参加する機会を提供することができた。
課題	若い世代がまちづくりを学ぶだけでなく、まちづくりの実践につながる取組を検討する必要がある							
今後の方向性	まちづくり塾とまちづくりラボが、まちづくりについて学ぶ機会として一定の役割を果たしたことから、まちづくり塾とラボは終了する。代わりに、高校で必修科目となった「地理総合」で、高校と連携しながらまちづくりについての授業を実施し、次世代を担う高校生が身近なまちづくりについて知り、まちの課題や自分たちができることを考える機会を提供する。							

21	事業名	介護保険サービス向上推進事業						
	担当課	(部名)	健康医療部	(課名)	長寿介護課			
	再掲	-						
	事業内容	サービス利用者等が介護保険制度を信頼し、安心して適正な介護サービスの提供を受けることができるように、サービスの質の確保及び向上に努める。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	介護相談員派遣回数	回	74	40	119	-	200(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	新型コロナウイルス対策で、訪問が困難な施設もあるが、以前に比べ訪問ができるようになってきている。					
		B						
課題	介護相談員の高齢化や、新たな介護相談員のなり手が不足している。							
今後の方向性	介護施設と介護相談員の良好な関係を継続し、介護相談員派遣事業を継続する。							

◇ 基本目標

1	基本目標	3 まちづくり
		市民のこころ豊かな生活をめざすとともに、地域社会の問題や地域課題を解決するための学習機会の充実を図ります。また、学校・家庭・地域組織・団体の相互の連携・協力によって生涯学習活動を推進し、家庭と地域社会の教育力を高め、地域コミュニティづくりを進めます。 また、人口の減少が見込まれる中、人口減少に歯止めをかけるためにも、郷土「茨木」に対する誇りや愛着を深めるとともに、地域の資源を活かすことで自然や文化、歴史、伝統芸能等を学習、体験する機会を創出していきます

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(4)大学等と連携した学習機会の充実
3	取組内容	● 専門的かつ特色ある学習内容を提供するため、大学など高等教育機関と連携した講座・教室の拡充を推進します。

◇ 事業内容

22	事業名	市内大学連携講座の実施						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
	再掲	-						
	事業内容	生涯学習に取り組む市民を支援するとともに活動の充実・向上を図るため、生涯学習センターにおいて市内大学連携講座を実施する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	市内大学講座等実施回数	回	5	15	14	-	20(R5)
	②	市内大学講座等実施参加者数	人	1250	1778	282	-	1,000(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 令和4年度は、市内連携講座等の実施回数が減少したことにより、参加者数が減少した。また新たな連携講座の実施に向けて、新規分野の講座等について、関係機関と調整等を行った。					
	課題	講座内容が固定化しているため、新規分野の講座の開催に向けて調整が必要である。						
今後の方向性	新規講座の開講に向けて、関係機関と市民ニーズに対応した講座開催に向けて、調整を行う。							

◇ 基本目標

1	基本目標	3 まちづくり
		市民のこころ豊かな生活をめざすとともに、地域社会の問題や地域課題を解決するための学習機会の充実を図ります。また、学校・家庭・地域組織・団体の相互の連携・協力によって生涯学習活動を推進し、家庭と地域社会の教育力を高め、地域コミュニティづくりを進めます。 また、人口の減少が見込まれる中、人口減少に歯止めをかけるためにも、郷土「茨木」に対する誇りや愛着を深めるとともに、地域の資源を活かすことで自然や文化、歴史、伝統芸能等を学習、体験する機会を創出していきます

◇ 生涯学習推進の取組内容

2	生涯学習推進の取組	(5)地域に関する学習機会の充実
3	取組内容	● 地域の産業、歴史、自然、特色等の学習を通して、地域社会への関心を高め、地域を愛する心を育み、地域社会での生活を向上させるための課題意識を持つことができる学習機会の充実に努めます。

◇ 事業内容

23	事業名	大学連携プラットフォーム事業						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	政策企画課			
	再掲	3 まちづくりへの取組、(5)地域に関する学習機会の充実						
	事業内容	茨木の魅力である多数の大学立地を活かし、市内大学や連携協定を締結している各主体で構成される連携プラットフォームを構築、運営し、情報共有や、地域との連携、大学間の連携促進を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	市で後援を行った講演会等の回数	回	2	1	1	-	1(R5)
	②	大学間連携の検討会議	回	5	6	3	-	5(R5)
	③	大学共同研究マッチング件数	回	3	3	12	-	4(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 大学と連携した生涯学習の推進のための土壌づくりとして、定期的に大学の地域連携担当課との対話の場を設け、様々な意見交換を実施した。					
	課題	市と大学との共同（研究）事業のさらなる推進を図る必要がある。						
	今後の方向性	大学との共同（研究）事業のマッチングを図る『いばらき×大学連携共同研究推進事業』について、対象大学の拡充（市外の包括連携協定締結大学の一部を新たに追加）や、市が抱える課題を提示することでマッチングを促進する。						
	24	事業名	川端康成文学館運営事業					
担当課		(部名)	市民文化部	(課名)	文化振興課			
再掲		1 まなびづくり、(1)生涯学習へのきっかけづくり、①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習へのきっかけづくりの推進						
事業内容		多くの市民に川端文学に親んでもらう拠点として、川端康成ゆかりの資料の展示等を行うことにより、教養を高め、市民文化の向上に寄与する。						
活動実績		名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
①		川端康成文学館入場者数	人	4316	4336	9334	-	8000(R5)
②		川端康成文学館夏休み企画展入場者数	人	529	369	627	-	600(R5)
③							-	
④							-	
R4年度の取組内容及び成果		評価	A 新型コロナウイルス感染拡大が続く一方で、入館者数は顕著な回復傾向を見せ、川端康成没後50年特別企画展「古都をかける川端康成」や、令和元年度以来3年ぶりに開催された生誕月記念企画展と関連事業のトークイベントが好評を博したこと等が要因と考えられます。コロナ禍ではありましたが、より多くの方に文学に興味・関心を持ってもらう機会を設けることができたため、「A」評価とします。					
課題		新型コロナウイルス感染症対策が緩まる動きがあるため、文学に関心が高くない方などへの訴求力を高める機会を増やすこと、また、様々な世代の方に茨木ゆかりの川端康成及び文学に興味・関心を持ってもらえる取組むことが必要です。						
今後の方向性		より様々な世代の方に文学館に足を運んでもらうよう、小学生～大学生等の学生や若年世代をターゲットとした講座や展示などの企画を検討します。						

25	事業名	魅力発見ツアー事業						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	まち魅力発信課			
	再掲	-						
	事業内容	市内外の人により茨木市の魅力を発信できるバスツアー等を開催する。市政への関心と理解を深めるため、「魅力発見ツアー」については、その時々話題となっている民間施設やスポットを巡り、「まちの魅力」を知っていただく。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	実施回数(魅力発見ツアー)	回	-	3	3	-	2(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A					地域資源を活かしたツアーにより、自分たちのまちをより深く知ること、まちへの愛着の醸成を図ることができた。また、R6年に完成のダムパークいばきた予定地を実際に見学し、次なる茨木のまちづくりの推進を実感していただくことができた。
課題	ツアーに参加していただける枠が多くないため波及効果が限定的である。							
今後の方向性	ツアー内容の更なる充実を図り継続的に実施する。							
26	事業名	富士正晴記念館事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	中央図書館			
	再掲	1 まなびづくり、(1)生涯学習へのきっかけづくり、①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習へのきっかけづくりの推進						
	事業内容	郷土の作家富士正晴氏に関する資料の収集・整理・保存を行い、冊子の刊行や、整理資料の公開、講演会(年1回)を実施し、文化芸術の向上に貢献する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	記念館来館者数	人	2691	3093	3527	-	3500(R5)
	②	講演会参加者人数	人	-	37	39	-	50(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A					企画展・講演会・子ども向けイベントの実施により、幅広い年代への富士正晴記念館の周知に努めた。また、富士正晴の絵を使用した一筆箋と冊子「富士正晴と関西の作家第3集」を作成し、富士正晴の魅力発信に努めた。来館者数も回復し、順調に進行したことから評価を「A」とする。
課題	郷土の作家富士正晴について知らない市民が多く、認知度が低い。							
今後の方向性	企画展・講演会・子ども向けイベントの開催に加え、図書館や他課のイベントに参加し、郷土ゆかりの作家「富士正晴」を広く知ってもらえる機会を作る。							
27	事業名	さくらまつり実施事業						
	担当課	(部名)	建設部	(課名)	公園緑地課			
	再掲	-						
	事業内容	元茨木川緑地において、身近な自然に親しむ場や交流・レクリエーションの場を提供することで、豊かな環境を啓発するとともに、市民の連帯感やふるさと意識の充実を高め、まちの活性化を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	さくらまつりの来場者数	人	中止	6394	13380	-	10000(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A					R4年度もコロナウイルス感染症の影響があったため、通り抜けによる桜の鑑賞(夜はライトアップ)のみを実施。
課題	近年の公共空間利活用の流れを踏まえ、これまでの市の主催によるイベントから、市民団体や民間団体等による自発的なイベントの開催を目指す必要がある。							
今後の方向性	市民団体や民間団体等によるイベント等の開催を促し、さらなる地域の活性化を図る。							

28	事業名	緑化推進事業						
	担当課	(部名)	建設部	(課名)	公園緑地課			
	再掲	-						
	事業内容	都市緑化の推進により、緑豊かで潤いのある街づくりを図るため、公園及び公共性の高い空間に面する民有地等に市と地域住民との協働で花と緑の輪を広げ、また、住宅等への生垣設置や接道部での緑化、壁面緑化の経費を助成し、地域緑化を促進する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	花と緑の街角づくり推進事業の参加者数	人	1828	1856	1870	-	1850(R5)
	②	民有地緑化助成事業の補助件数	件	3	4	7	-	10(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A					花と緑の街角づくり推進事業においては、花苗数の調整や活動へのアドバイス等の活動支援を行った。また、民有地緑化助成事業については、事業を活用していただくよう周知に努めた。民有地緑化助成事業は年間の申請件数も増え、樹木43本、壁面緑化2件と地域緑化が促進された。
課題	花と緑の街角づくり推進事業については、参加者の高齢化により活動を止める方が増えている。また、民有地緑化助成事業の課題は高木の成長による道路空間への越境が懸念される。							
今後の方向性	事業周知を進めるとともに、花と緑の街角づくり推進事業については、新しい参加者の獲得や制度をより活用しやすくするための見直し、民有地緑化助成事業は樹木の大きさにより基準を変更するなど検討が必要である。							
29	事業名	市民会館跡地エリア活用事業						
	担当課	(部名)	市民文化部	(課名)	共創推進課			
	再掲	-						
	事業内容	市民との対話を基本に、市中心部という立地性や今後の公共施設更新の問題など政策課題を踏まえ、市民会館跡地エリアの活用について検討を進める。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	市民ワークショップの開催	回	14	16	14	-	15(R5)
	②	IBALAB@広場での市民企画等の実施	回	78	70	229	-	200(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A					市民ワークショップやIBALAB@広場での市民企画等の実施のほか、市役所前線の廃道に向けた社会実験の実施など、さまざまな形で地域社会における市民活動への参加の機会を創出でき、生涯学習の取組の進捗が順調に進行しています。
課題	おにクルの開館に向け、より多くの市民参加を得られるよう取り組みを進める必要があります。							
今後の方向性	引き続き市民ワークショップやIBALAB@広場での企画の実施を続けるとともに、おにクルの開館当日にもさまざまな形で市民の参加が得られるような取り組みを進めるなど、市民参加に機会の創出に努めます。							
30	事業名	北部魅力アップ事業						
	担当課	(部名)	都市整備部	(課名)	北部整備推進課			
	再掲	-						
	事業内容	本市北部地域にある緑豊かな自然環境や歴史環境、現在事業推進している安威川ダム、彩都の大規模プロジェクトなどの資源をつなぐとともに、地域課題や地域のあり方も踏まえ、北部地域の魅力向上を図るための検討と取組を地域や関係団体とともに進める。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	公園づくりワークショップ等参加者数	人	0	111	148	-	150(R5)
	②	出前講座受講者数	人	17	17	100	-	100(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B					安威川ダムや彩都について出前講座を実施し、事業の周知を図るとともに、北部地域活性化の拠点の一つとなる安威川ダム周辺に整備中の公園「ダムパークいばきた」で活動したい方を対象としたワークショップを開催。課題の共有や活動者として必要な機能の検討のほか、令和5年5月開催のダムパークいばきたフェスティバルに向けた企画立案・準備を行った。個人・団体・企業といった多様な主体が参加し、魅力向上に向けた提案をいただいたほか、参加者同士のつながりが生まれるなど、一定の成果を得た。
課題	地域活性化には、継続して地域と関係団体と意見交換を行うとともに、地域の主体的な取組の促進につなげる必要がある。							
今後の方向性	引き続き地域や関係団体と意見交換を行うとともに、より多くの方に北部地域の魅力について知っていただく機会を提供する。							

31	事業名	大阪ミュージアム関係事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	商工労政課			
	再掲	-						
	事業内容	大阪のまち全体をミュージアムに見立て、魅力的な地域資源を発掘・再発見すること等によりまちの魅力を内外に発信することを目的とし、本市にある魅力的な地域資源を大阪ミュージアム登録物として登録し、登録物を活用した観光推進を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	新規登録物件数	件	2	0	0	-	1(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 市内の登録物等の情報発信を行った。					
課題	広域的に周知できる本事業のスキームを有効に活用するため、新たな登録物の登録やPRに積極的に取り組むことが必要である。							
今後の方向性	本市の魅力を多く・広くPRできるよう、新たな登録物の登録を検討する。							
32	事業名	観光あるき事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	商工労政課			
	再掲	-						
	事業内容	阪急沿線において、沿線自治体と鉄道事業者が実行委員会を作り、地域の魅力を発信していくことを目的とし、「阪急沿線観光あるき」のPR事業やイベント等を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	ウォーキングアプリでの本市コースの踏破回数	回	644	698	359	-	400(R5)
	②	ガイドツアー参加者数	人	中止	18	29	-	30(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	B 阪急沿線観光あるきのウォーキングアプリにおいては、比較的歩きやすい「元茨木川緑地コース」を設定し、沿線自治体の中でも比較的多い踏破数となったが、前年とほぼ同様のコースだったせいか、踏破回数は減少した。 ガイドツアーについては「旧市街地コース」を設定し、観光協会(ボランティアガイド)との連携のもと実施した。					
課題	実績を踏まえて見直しを行うとともに、実行委員会での広域的な広報等を積極的に行い、参加を促進することが重要である。							
今後の方向性	沿線自治体とも連携し、広域に発信できる効果的なツールでもあるので、本市の魅力を多く・広くPRできるよう、ウォーキングコースや魅力スポットの設定を適宜更新していく。							
33	事業名	茨木フェスティバル事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	商工労政課			
	再掲	-						
	事業内容	市民意識の高揚とみんなの郷土づくりを推進し、市民の連帯感を高めるため、市・商工会議所・観光協会・青年会議所の4者協働で構成する茨木フェスティバル協会によりイベントを開催する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	茨木フェスティバル事業来場者数	千人	中止	中止	105	-	110(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、2年間の中止を経て、3年ぶりの開催となった。 中央公園グラウンドなど、会場のレイアウトも以前と異なるなか、来場者の安全確保と感染対策を講じたうえで新たな企画にも取り組み、官民協働で開催できた。					
課題	感染症の状況を踏まえ、フェスティバル協会構成団体や実行委員会と適宜協議し、適切な実施方法を検討する必要がある。							
今後の方向性	おにクルの工事にともなう会場設定や来場者の動線確保、感染症拡大の状況等を踏まえた対策など、安全性を重視して、効果的なイベントの継続ができるよう、フェスティバル協会において検討を進める。							

34	事業名	リノベのいばらきプロジェクト推進事業						
	担当課	(部名)	企画財政部	(課名)	政策企画課			
	再掲	-						
	事業内容	活動人口を増やすための「リノベのいばらき」プロジェクトにおいて、リノベーション、D I Yを切り口に、「楽しく」まちづくりを始めるきっかけを提供し、活動人口の増加を図り、まちの持続的発展をめざす。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	活動人口(地域活動等への参加)割合	%	31	26.4	32	-	35(R5)
	②	地域活動等に参加したいと考えた人の割合	%	64	56.8	50	-	60(R5)
	③	空き物件の改修件数	件	1	0	0	-	0(R5)
	④	工房利用者数	人	710	484	689	-	600(R5)
	R4年度の取組内容及び成果	評価	「ガンバル市」、「いばらき立命館DAY」、「イオンモール茨木SDGsフェス」、「茨木小学校150周年記念祭」など、近隣で開催されたイベントに出展し、他のまちづくり活動との連携を推進した。					
	B							
課題	人がまちに関わるきっかけとして、まちのリノベーション（備品づくり等）を推進したが、民間物件を手掛けるハードルは高く、取組の持続化に課題が確認された。また、工房運営の自走化にも課題がある。							
今後の方向性	平成29年12月から進めてきた本取組の成果と課題を整理し、今後の市の施策に活用する。							
35	事業名	文化財発掘調査事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	歴史文化財課			
	再掲	-						
	事業内容	文化財保護法の定めにより、市内に存在する埋蔵文化財の発掘調査を開発行為等に先立って行う。また、埋蔵文化財の保存と活用を図り、郷土愛の醸成、市民文化の向上に貢献する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	発掘調査件数	件	168	176	136	-	160(R5)
	②	出土遺物整理事業費	千円	19580	14850	13530	-	18543(R5)
	③	史跡等維持管理費	千円	2787	4009	632	-	1796(R5)
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	市ホームページの地図情報サイト上において遺跡や古墳の範囲を示した「周知の埋蔵文化財包蔵地」公開し、市民の利便性を高めた。					
	B							
課題	多くの市民に文化財保護の取組に対する理解を深めてもらえるよう、働きかけていく必要がある。							
今後の方向性	守り伝えられてきた本市の多様な文化財の魅力を引き出す調査・研究を進め、その成果をまとめ、公開していく。							
36	事業名	文化財保護事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	歴史文化財課			
	再掲	-						
	事業内容	指定文化財をはじめ市内に残された文化財に対し、その保存と活用のために必要な措置を講ずることにより、郷土の歴史の正しい理解と郷土愛の醸成を図り、市民文化の向上に貢献する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	「テーマ展」入館者数	人	-	4151	1886	-	2500(R5)
	②	「郷土史教室」延べ受講者数	人	-	319	178	-	300(R5)
	③	「古文書教室」延べ受講者数	人	40	66	154	-	150(R5)
	④	「銅鐸鋳型発見50周年シンポジウム」参加者数	人	-	-	225	-	-
	R4年度の取組内容及び成果	評価	文化財資料館及びキリシタン遺物史料館において、感染症対策を取りつつ団体見学を再開した。常設展示のリニューアルを行った。郷土史料室では、地域の文献史料の収集・整理・保存・公開だけでなく、子ども向け企画やミニ展示など普及啓発にも取り組んだ。					
	B							
課題	多くの市民が本市の文化財の魅力に触れることのできる学習機会の確保が求められている。							
今後の方向性	多くの市民が本市の文化財の魅力に触れることのできる機会を提供する。							

37	事業名	ライフスタイルの省エネ化推進事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	1 まなびづくり、(1)生涯学習へのきっかけづくり、①様々な施設や関係機関と連携した生涯学習へのきっかけづくりの推進						
	事業内容	省エネ化を推進するため、イベントや広報媒体を活用して、省エネ活動につながる啓発を行うとともに、市民に省エネナビ（家庭用電力使用量測定機器）の貸出しと、地球温暖化防止を目的に電気・ガス等の使用量を記録し家庭での二酸化炭素排出量を計算する環境家計簿の普						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	環境家計簿に関する市民講座開催数	回	7	10	7	-	10(R5)
	②	環境家計簿に関する市民講座参加者数	人	59	111	161	-	120(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	市内で各環境保全活動に取り組む市民団体と協働し、市民参加型の事業を実施した。また、環境家計簿を作成し、その普及促進を行った。					
	B							
課題	定員に対して参加者が少ない市民講座がある。							
今後の方向性	講座内容や実施時期、周知方法等を見直し及び検討を行っていく。							
38	事業名	生物多様性保全事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	市民団体と協働して生きもの調査員養成連続講座を実施する。市内の環境資源（動植物）の状況を、子どもを中心とする市民が観察する際に活用できるリーフレットやガイドブックを作成し配布することで、生物多様性の保全に向けた環境意識の向上を図る。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	生きもの調査員養成連続講座参加者数	人	52	58	35	-	30(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	市域に生息する生きものを調査する「環境資源調査」に参加する調査員を養成する生きもの調査員養成連続講座を開講した。新型コロナウイルス感染対策のため、定員を減らして実施した。また、天候不良のため一部の回が中止となった。					
	B							
課題	講座修了後も調査員として活動できる受講生が少ない。							
今後の方向性	年間を通じて講座に参加できること、修了後は調査員として活動すること等の条件を募集時に追加し、継続して活動可能な参加者を増やす。							
39	事業名	河川体験型環境教育事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	子どもと保護者が実際に川に入り、水生生物を捕獲・観察・同定することで、生物多様性など環境意識の向上を図る。(No.116の一部)						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	参加者数	人	90	70	62	-	70(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	参加者である子どもと保護者が実際に川に入り、水生生物を捕獲・観察・同定することで、生物多様性など環境意識の向上を図った。					
	A							
課題	本講座のみの参加だけに留まらず、他の生物関連の講座参加への誘導が必要である。							
今後の方向性	そのほか市が主催している生物関連のイベントに参加いただくために、本講座内での周知に努める。							

40	事業名	ヒートアイランド対策事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	環境政策課			
	再掲	-						
	事業内容	ヒートアイランド対策や環境意識の高揚のため、市内の学校等においてみどりのカーテンを設置するとともに、市民・事業者の取組に支援を行う。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	市民モニター数	人	36	50	46	-	50(R5)
	②	学校・事業者等の取組組織数	施設	65	70	71	-	70(R5)
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A モニター説明会をYouTube視聴によるオンデマンド方式にしたことで、用意している苗を全てお渡しすることができた。					
課題	・ヒートアイランド対策について、市民に理解してもらう必要がある。 ・モニターの時だけではなく、継続的にみどりのカーテンを取り組んでもらえる市民の育成が必要である。							
今後の方向性	モニターの時だけではなく、継続的にみどりのカーテンを取り組んでもらえる市民の育成する。							
41	事業名	小学校区公民館講座等実施事業						
	担当課	(部名)	教育総務部	(課名)	社会教育振興課			
	再掲	-						
	事業内容	各公民館において、社会教育の場として、地域住民のニーズに対応した文化、スポーツなどの講座等を開催し、住民の主体的な学習活動を支援する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	講座等開設数	講座	227	268	347	-	350(R5)
	②	講座等受講者数	人	3323	3942	6266	-	6300(R5)
	③	玉櫛公民館S L見学会	回	5	6	6	-	6(R5)
	④	玉櫛公民館S L見学会参加者数	人	667	576	507	-	600(R5)
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A 講座等の開催回数や定員を柔軟に運用することで、講座開催数・受講者数ともに前年度より増加した。					
課題	コロナ禍前の水準と比べると、講座の実施回数・受講者数ともに減少している。							
今後の方向性	民間企業とも連携し、現代的課題をテーマにした講座を積極的に開催するなどの工夫を行いながら、より充実を図っていく。							
42	事業名	市民参加型森林保全事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	農林課			
	再掲	-						
	事業内容	市民参加型の里山保全を推進することにより、美しい里山景観の復元や水源涵養能力など森林の持つ多面的機能を発揮させるほか、森林ボランティアを育成し、市民参加型の里山保全を推進する。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	森林サポーター養成講座受講者数	人	14	0	25	-	25(R5)
	②						-	
	③						-	
	④						-	
	R4年度の取組内容及び成果	評価	A 定員を超える受講申し込みがあり、座学や屋外実習を経て受講生全員が閉講式を迎えるとともに、ほとんどの卒業生が森林ボランティア団体に加入されて実際に森林整備に携わる等、効果が十分に発現されていることからA評価とした。					
課題	感染症対策の一環として、オンラインを活用して自宅で受講できるシステムの構築を図る必要がある。							
今後の方向性	森林サポーター養成講座の内容について、従来の森林整備・保全に関する知識と技術の習得を基軸としながら、SDGsに関連した自然環境を学ぶ講座を新たに開講し、「森林環境サポーター養成講座」として講座内容の充実を図るとともに、森林環境譲与税の主たる目的である、森林に関わる新たな人材の輩出を目指す。							

43	事業名	新規農業者養成事業						
	担当課	(部名)	産業環境部	(課名)	農林課			
	再掲	-						
	事業内容	農業の新たな担い手を確保し、持続的な農業の推進を図るため、市民を対象とした農業体験講座を開催することにより、準農家や援農者を発掘する。また、一定の営農技術を取得し、独立・自営就業するものに対し、国の給付金を活用して、農業経営をサポートする。						
	活動実績	名称	単位	R2	R3	R4	R5	目標
	①	いばらき農業はじめ隊（農業体験）参加者	世帯	14	11	11	-	10(R5)
	②	新規就農者育成総合対策事業の活用件数	件	3	2	2	-	5(R5)
	③						-	
	④						-	
	R5年度の取組内容及び成果	評価	新規就農を希望する者に対して、大阪府、農業委員会、JA、みどり公社と連携したサポートを行い、きめ細かな対応を行っている。また、いばらき農業はじめ隊卒業生から準農家や援農者へつながるケースも見られるなど、就農希望者の掘り起こしも順調に進んでいるため、B評価とした。					
	課題	利用権設定が可能な農地の掘り起こしが難しい事、新規就農希望者が農業で生計をたてる現実についての認識の甘さ、新規就農者自身が地域に受け入れてもらう必要があること等、様々な課題が存在している。						
今後の方向性	R4年度に農業経営基盤強化促進法が改正され、大阪府の準農家制度がR5年度から廃止されることになった。これまで、非農家が農地を借りるためには、準農家になることが必須であった。準農家と同様の農業技術や知識が学べ、本市で就農できる取組みとして、R5年度に営農指導員を採用し、講座プログラムの検討を行うとともに圃場の拡大や必要な施設や資機材などについて検討をおこなう。							